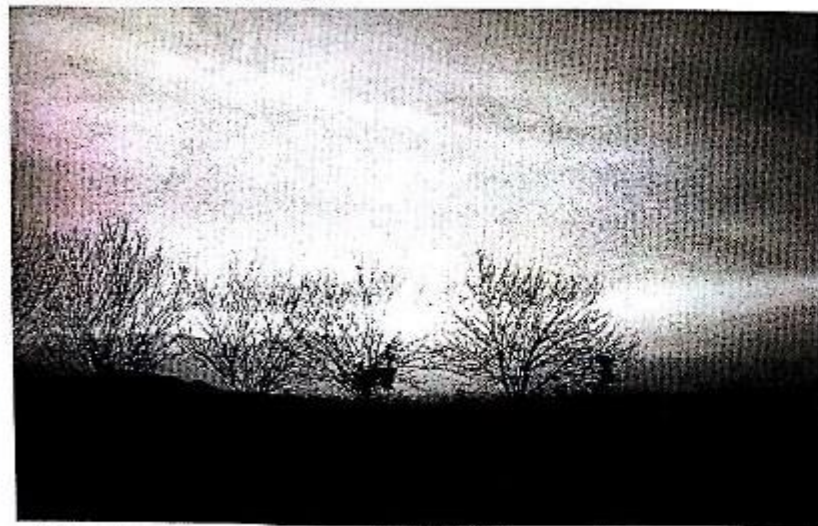




寿の松 (山ノ辺の道・崇神天皇陵)

初日の出を拝む  
 新たな一年の始まりに  
 輝く朝日を見て  
 輝かしい一年になるように  
 願をかける  
 午前六時三十分頃  
 東の空が淡紅色に染まりはじめる  
 刻々と空の色が変わり  
 濃紺の空に赤の割合が増えてゆく  
 午前七時一分  
 太陽が顔をのぞかせる  
 みずみずしい朱色  
 みるみるふくらんで火の球になる  
 新たな一年の始まり  
 今年もよい年になりますように

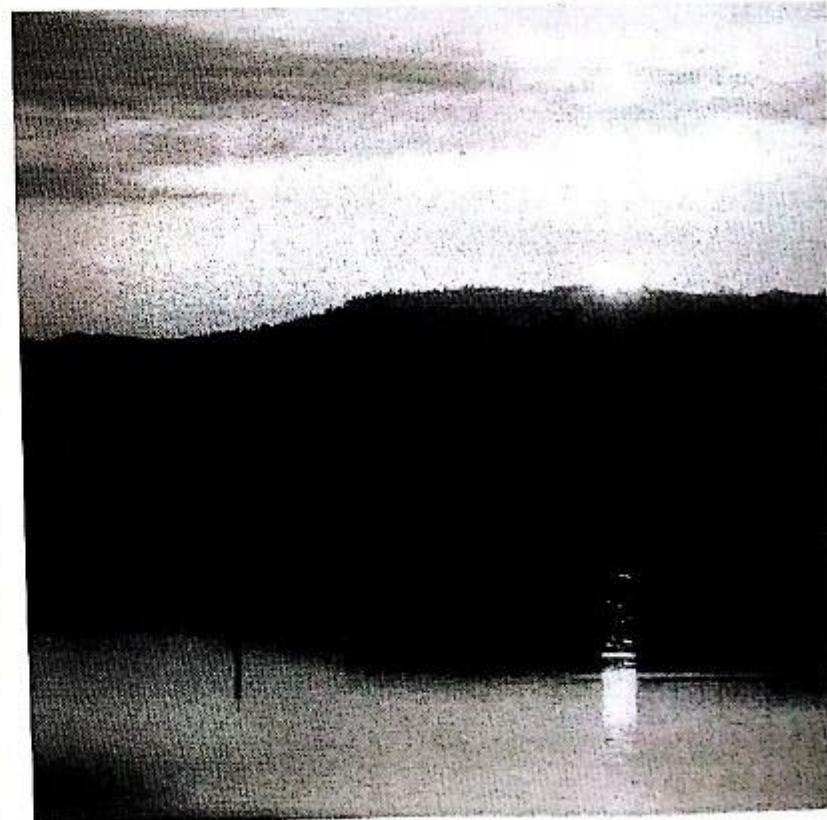


落日 (山ノ辺の道・穴師の里)

Photo essay

# はつひ

題字 中田 蘭石  
 撮影 由井 収  
 文 松永 恵一



初日の出 (西の京・扇間田池)

季節の



夜明け



日だまり



夕日

実景

撮影 武市通治

新春



翁と姫



朝日



台高山脈の山並みの眺望（高見山より）



三浦 弘幸 清水の頭から綿向山を望む（鈴鹿）

岩野 明



山頂付近の登山道はみごとな霧氷の並木道（高見山）



三浦 弘幸 綿向山の山頂（鈴鹿）

岩野 明





克

### 山岳宗教の山、ボンボン山

綱本 逸雄

高槻市と京都市西京区の境にある「ボンボン山」(678・9尺)は、華隆院平原である北摂山地東縁の断崖の上にそびえ、東御の御道(古街)・4丁と共に周囲の山地に残丘状に高くなっている。

ボンボン山は二上教年、金丸命塚につながる土地買収費4行位円余のゴルフ場開発疑惑で御光を浴び、改たてこの奇妙な山名の由来に関心が果まっている。いちばんよく知られているのが、「頂上で足踏みすると足音がボンボンと反響するのでこの名がある」(三省堂「コンサイス日本山名辞典」)。

この擬音名は頂上の岩の構造上空洞があり、トントんと踏むと反響共鳴するといわれ、今は

踏み固められて鳴らないという。しかし山一帯は山岳聖域として早くから開けていた。だから由来を近代の地質学的な意味だけに限定してしまつてよいのかどうか疑問に思ふ。

山の正式名は加茂勢山。高槻市側のハイキングコース途上にある神峰山寺、本山寺は開山が役行者に伝えられ、役行者の出身が、奈良葛城山麓で当時勢力をふるった藤氏であることから、山の由来をここに求める人も結構ある。「鴨勢山」「鴨山」とも書かれることが理中らしい。しかし種々の漢字表記があるというところは、当て字だということとで、字義通りの解釈ではリテライがない。

神峰山寺は天台宗、根本山神峰山寺空隆院と号す。

最近の研究で室町期成立といわれる「神峰山寺秘密経記」によると、役行者が葛城山で修行

中、はるか北方の嶺に金色の光が発しているのを見て、「神峰山嶽」にやってきましたと伝える。

行者は神峰山寺を建立し、地主神のお告げで松木を得た。地主神はこの木で四体の毘沙門天をつくり、最初の像は北塔院の本尊とし、次の像は威馬寺、第三の像は信貴山、第四の像は北峯の奥院靈雲院の本尊とした。これより世に本院を根本太良(太郎)というと伝える。これが根本山の起りといわれる。

本山寺は北山宗院と称し、神峰山寺の奥院とされるが、本山寺の呼称は徳川時代以降だそう。つまりこの頃神峰山寺から独立したとみられる。

京都市の忍頂寺も山号は加茂山である。「二代実録」によると、当寺は貞観二年(860)、僧三澄が神峰山寺を勧願寺としたと記す。「神峰山寺」の初見である(神峯山寺は根本山宝塔院だとする説もある)。同市の



克

### 随想 (山のニッセイ)

大門寺も山号は神峰山、神峰山寺、忍頂寺、大門寺共に開成皇子の中興もしくは開基である。開成は光天皇后の皇子というが異説もある。開成はまた、藤原寺の開基、安岡寺の中興である。これらのことから、神峰山寺といふのは古くは「この地の山岳寺院の総称であつたらしい」(「大阪府史第三巻」)。よつて神峰山という山名も、中世はこれら寺院のある北摂の山岳の総称で、山号も山名からとられたと考えられる。

近世以降は、神峰山の領域が限定されてくる。「新改正撰津国名所旧跡相見大絵図」(1836)によると、「神峰山・根本山神峰山寺」と記され、ボンボン山は「神峰寺嶽」と呼ばれた。寛政十年(1799)刊「撰津名所図会」でも「神峯寺嶽(本山寺より二十町ばかり北にあり。城垣の界なり)」と紹

介している。

ところが「撰津国」寛政版(1847)では、ボンボン山と神峰山寺あたりを「根本山、神峰山」と略記し、神峯寺嶽の名が見えない。なる元禄十四年(1701)刊「撰津雑談」は神峰山寺を「神峰山寺」と記す。

近代に入ると、明治四十年刊の吉田東伍著「大日本地名辞書」では、「本山寺、北山宗院」と称す。東は神峰山に接す」とし、神峰山をボンボン山に当てている。いっぽう、明治三十九年刊「日本山名考」(公刊形式)はボンボン山を「加茂勢山」とし、「山城国乙訓郡の西方にあり。大原野村大字小庄より一里にしてその山頂に達す。標高凡二千三百四十八尺(678・8尺)」と説明している。

ところで、「ボンボン山」自体の呼称は明治以降の地圖、紀行文などから散見されはじめる。明治四十二年測量の陸軍参謀本

部陸奥図には、「ボンボン山」の名が見える。

昭和二年発行の北尾鏡之助著「日本山岳叢書」にもボンボン山の名前にひかれて登つたことが載っている。本山寺の寺番人が「踏むとボンボン鳴るから」と由来を説明している。

土を踏みつければ、どこでも多少は同じ音がする。しかし北尾は「鳴った」と記していない。昭和十五年刊「乙訓郡誌」は「加茂勢山」「ボンボン山」を併記している。そして今日「ボンボン山」の正式名称は「加茂勢山」とされている。

このように、ボンボン山は、古来「神峰山」「神峯山嶽」「神峰寺嶽」「加茂勢山」と呼び替えられてきている。したがって、「加茂勢山」「加茂勢山」の由来もそれ以前の宗教的要素をもつ呼称から離れて、姓氏説のような外因から来ているとは考



克

えにくい。

時代による峠の進みがあるもの、寺、山号が山名に用いられてきたとみるのが安当でなかろうか。「かぶきん」「かむせん」「かもせ」の転訛のなかで、発音からそれに相当する漢字が当てられたのだろう。

「ボンボン」自体も、やはり「根本山」の「根本」本本（はんぱん）からきているのではないだろうか。

要覧電報発行の新社「歴史ものがたり街道—京都千年下国」で、西川照子氏（民俗学）は、「本山寺は古名、根本山寺。ボンボン山の名はこのコンボンに由来（五来重）」としている。前段の説明は間違いで、後段は同意である。なお同氏は、「鶴巻山」の由来を「鶴民」だとしている。



### 山麓の印象

安田 豊弘

その朝、八ヶ岳の主峰・赤岳をめぐっていた。小津沢発小峠行きの特急列車から野辺山駅のホームに降り立ったのは、ぼく一人だった。がらんとしたホームに発車のベルが鳴りひびいた。その時だ。ひとりの女子高生がホームに駆け込んできた。だが、無情にも列車のドアは彼女の目の前でシャリと閉まった。とたんに、彼女はワンと泣き出した。その様子に気付いた車掌がドアを開けた。彼女を乗せた列車は何事もなかったように退のいていった。「ああよかった。次の列車まで待ったんじや二時間には遅れるもんね……」。ぼくは涙を流すもんだ気分だ。黒界尾根から赤岳への道を歩きだした。

克

随想 (山のエッセイ)



大峰山—龍王山へと歩いた時のことである。龍王山からの下山路を南へとり、三原市の市街地へとくだってきた。「ぼくの生きた場所はどこあたりなんだろっか……」などと考えながら歩いていた。その時とある民家の障子に立った上桐が「お帰らないかい」とごく自然にあいさつしてくれたのである。「ただ今は帰りました」と、「扉扉を返しながら胸のなかに熱いものがこみあげてきて、上を向くようにして、歩いたのだった。

### 山頂の標識

西田 昭弘

山登りは、山の頂上に登ることである。山頂に着いて三角点をひとつつけたとき、あるいは三角点のない山でもピークに辿り着いたとき、目標を達成したという喜びがある。

ところがピークに辿り着いても山名標識が沢山ある山はなかなかいない。山名標識の多い山は、だいたい登りやすい山である。そんな山に登って、何故山岳会名人の山名標識を付けるのであろうか、自分達の会の山岳会であるか、登ったという証拠を残すためであれば落書きに過ぎない。

鶴巻世谷山に登った折にも、某山岳会の山名標識がハリガネでソコソコにくくり付けられてあった。その札の空白欄に「ハリガネでくくるなんてソコソコがかわいそう」と書かれてあった。まったく同感である。

山名標識がよくある山はルートがはっきりしている山である。そのような山に登って山岳会名入りの山名標識を付けているような会は、一流の山岳会ではない。安易な山登り思想がそのような行いをなせさせているように思えてならない。観光地の登

本誌に自身を託していた3年間は、中国山地の山々をよく歩いた。定休日の土曜の午後、山からくだってきて里の道を歩いていると、学校から帰ってくる子どもたちに出会う。すると、小学生も自転車の中学生も、口々に「ただ今降りました」とあいさつしてくれる。初めての時は面くらって、「誰か後ろの人にあいさつしたのかあ?」、と一瞬振り向いたりしたが、「二度目からは「お帰り」と言葉に返せるようになった。

広島県—原市はぼくの生まれ故郷である。乳児期に離れた土地だから、なんの記憶があるわけではない。しかし、わが生まれ故郷、との思い入れはあも。三原市の西部には、大峰山(高羽山、6100.2m)から龍王山(6650.1m)へと続く山並みがあって、中国自然歩道となっている。古刹の仏通寺から

書きたいして変わりが無い。8月20日に新巻の標識山に登った。やはり山頂には沢山の山名標識があった。昨年6月に山頂の山名標識が整理され、一つだけになったと聞いた。しかし登ってあるとおよそ10個の山名標識があった。「1年2か月の間にまた付られたのだと思うとがっかりであった。やはり、登りやすい人気のある山は山名標識が多いのだ。山名標識は一つあれば十分である。

それに対して人気がない登りにくい山のピークには山名標識は見当たらぬ。最近登った天狗峠、地蔵峠、ムシンボウ、空山、翠入道には山名標識は一切なかった。登った記録は、あちこちで読んだが、そういう山に登る人達は山名標識を付けることなど思ってもいない。山を賞賛し感度で登っておられるのだ。

古代日本のロマンに浸る

# 大黒目山1等点と葦嶽山

あしたけやま

備後

慶佐次 盛一

広島県庄原市は中国山地の南部に位置する小さな都市だが、その庄原市に日本ピラミッドといわれる葦嶽山がある。わが国でピラミッドと呼ばれる山は、エジプトのそれではなく、古代日本人の信仰対象であった神奈備山のことであろうと私は考えている。三角錐の形をした神奈備山は各地で見られるが、ここ庄原市の葦嶽山は、ドルメン(供物舎)や不思議な巨石群がある。山を登って見ると不思議な山である。

以前から興味のある山だったが、山という山でもなく大阪からこの山だけを目指すにはもったいない。どこか近くの、適当な山と組み合わせるべきだと物色していると、すぐ近くに1等三角点の大黒目山があった。

この山も未登の山だ。葦嶽山はガイドブックにあるが、大黒目山のほうは登路情報の乏しい山だった。早速庄原市観光課へ問い合わせる。観光課でも登路情報は持ち合わせていなかった。ただ葦嶽山だからシーズンは入山できず、狩猟期間にはハンターが入るから入山は見合わせてほしいとのことであった。

検査の季節は遠慮しても、狩猟期間はなんとかなるだろう。正午休みを利用して庄原市内の葦嶽山、青春18キップ利用ののんびり登山計画を練り始めた。ところがなんと、取地に問い合わせると正月は庄原市内の旅館、ホテルは休業。おまじに葦嶽山方面の路線バスも運休とあっては、マイカー

大黒目山山頂にて



利用のテント泊しかなかった。

## 大黒目山へ

大阪から約4時間、中国自動車道庄原インターを出る。国道452号線から188号線を経て町道に入り、永末町、小用町、後谷を過ぎ、ヘアピンカーブで峠を越した所が今夜の宿営地の葦原キャンプ場だ。入り口に案内板があり、「太古の村」と

書かれた標識もある。案内板のあるキャンプ場は実際にはまだ整備中で、太古の村でキャンプが出来そうなので、太古の村へ車を走らせた。丸太で組んだ柵をくぐると太古の村で、無人の管理棟が建つ広場に到着した。広場には太古の村にふさわしく盛装式仕立の二棟も建ち、面白いことにリフトの形が、た小黒もあつた。水は豊富、藤棚の下、芝生にテントを張ることにして、車を置いて大黒目山に向かう。

登路は知らないが、とりあえず案内板の立二又路から大黒目山南側の葦嶽山へ延びている微細の道を選んだ。正確には地形図で線の入りは誤りで、二又路から約10分ほどキャンプ場までの所が入り口だった。最初は軽自動車なら走れそうなお道だったが、

やがて山道らしくなり「大黒目山登山口」と書かれた標識を道の左側に立合せて安心する。

やはり葦嶽山らしく、登路にはびっしりと柵が張りめぐられ、その柵をたどりながら登れば迷うこともないだろう。ハンターの犬の声も聞こえるが、心配はなさそうだった。登路の最後はジグザグを刻み、大黒目山南側の葦嶽山手前の鞍部に着く。ここにも「葦嶽山を経て大黒目山へ」の道標があり、左折して標識を過ぎ、途中登路を求めて葦嶽山708号(地蔵院の表示ミスで後述する)にも登ってみた。何の変哲もない頂で、再び登路に戻って大黒目山を目指す。

起伏の緩い標識を、葦嶽山の柵がずっと先導してくれる。前方に大黒目山の姿が見えたと頂上は近い。石積みを越えようと、フラットな頂上の真ん中に1等三角点(補点)が埋まっている。そばには「葦嶽山(補点)高郷十市研究会」と書かれた標柱があった。大黒目山は昔の葦嶽山あけの山だったようだ。北東と東部が開け、葦嶽山や鳥取原の山がかすんで見える静かな頂だった。

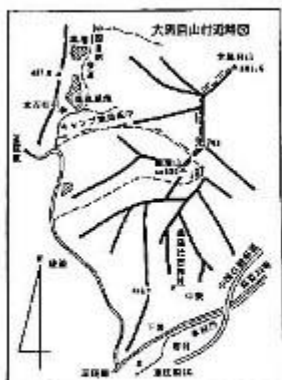
しばらく歩いて元の葦嶽山に下る。まだ時間には余裕があり、葦嶽山近くの山上池を訪ねることにした。葦嶽山から池に下れそうだった。

だが、葦嶽山に覆われていたので標識に道をとった。すぐに小さなピークに着く。朽ちた柵を見つけて驚く。大きな踏石もあり、山の雰囲気とい、このピークが葦嶽山ではないかとふと思ったのだが、やはりそうだった。葦嶽山と古い小さな標識があり、証取してから、先ずから古い地図にみると、このピークが葦嶽山だと教えてもらった。地理院の2万5千の山名表示位置が間違っているように、概観図では訂正しておいた。

この山が葦嶽山だとすると、この下の池が気になる。葦嶽山の池は雨を呼ぶ竜が棲むものと信じられており、葦嶽山の祠は竜神を祀るもので、葦嶽山は雨乞いの山だったと想像できる。ますます山上の池に興味が出てきたものの、葦嶽山から下る道は長つからず、元の葦嶽山に戻り葦嶽山を分けて池に下った。意外に明るい池だったが、獣の足跡だらけで人の足跡はない。それでもなんとか池を巡って大黒目、元の道をキャンプ場に戻った。

## 葦嶽山へ

さすがに朝は冷え込みがきつかったが、道標は迷わずなくテントを撤収して葦嶽山へ向かう。途中、大黒目山南側の葦嶽山古神



# 山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 北アルプス縦断    | 34 筑紫山       |
| 2 白馬岳        | 35 朝日・仕舞三山   |
| 3 尾瀬池・霧ヶ峰    | 36 奥日光       |
| 4 駒ヶ岳        | 37 赤王 赤王 駒ヶ岳 |
| 5 上高地・穂・穂岳   | 38 奥日光 奥日光   |
| 6 奥日光        | 39 八幡平 八幡平   |
| 7 奥日光        | 40 十和田湖 十和田湖 |
| 8 中央・南アルプス縦断 | 41 ニセコ・羊蹄山   |
| 9 不肖野・空母岳    | 42 大雪山・十勝岳   |
| 10 甲斐駒ヶ岳     | 43 白山        |
| 11 奥日光 奥日光   | 44 奥日光 奥日光   |
| 12 妙高・戸隠     | 45 磐前所 磐前所   |
| 13 奥日光 奥日光   | 46 比叟山系      |
| 14 新井原 新井原   | 47 奥日光山系     |
| 15 西上州 西上州   | 48 奥日光山系     |
| 16 奥日光 奥日光   | 49 奥日光山系     |
| 17 ハッピ 八ヶ岳   | 50 北信の山々     |
| 18 富士 富士     | 51 奥日光 奥日光   |
| 19 奥日光       | 52 奥日光 奥日光   |
| 20 奥日光       | 53 奥日光 奥日光   |
| 21 奥日光       | 54 奥日光 奥日光   |
| 22 奥日光       | 55 奥日光 奥日光   |
| 23 奥日光       | 56 奥日光 奥日光   |
| 24 奥日光       | 57 奥日光 奥日光   |
| 25 奥日光       | 58 奥日光 奥日光   |
| 26 奥日光       | 59 奥日光 奥日光   |
| 27 奥日光       | 60 奥日光 奥日光   |
| 28 奥日光       | 61 奥日光 奥日光   |
| 29 奥日光       | 62 奥日光 奥日光   |
| 30 奥日光       | 63 奥日光 奥日光   |
| 31 奥日光       | 64 奥日光 奥日光   |
| 32 奥日光       | 65 奥日光 奥日光   |
| 33 奥日光       | 66 奥日光 奥日光   |

※昭文社の「山と高原地図」は、最新として毎年更新されています。この山の地図はなるべく最新のものを使用してください。また、昭文社の「山と高原地図」へのお問い合わせは、昭文社がご用意している「山と高原地図」のコーナーにお電話ください。また、新刊情報もお知らせいたします。

**昭文社**

本社 東京都千代田区九段北4-2-11  
電話03(3282)2141(代) 〒102

支社 大阪府大阪市東区中津1-11-23  
電話06(303)721(代) 〒532

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・福岡・山形  
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



げた一種のドルメンのようにも思えた。葦垣山にしても、葦垣峠が考えたようなニジブツのドラムンドではなく、縄文時代の蛇形印を伝えるものな

▲コースタイム▼  
1日目 大阪(中国自動車道・約4時間)

08247(2) 1111  
08247(2) 2891



ドルメンからの葦垣山

社へ初詣をする。式内の巾着ある古社にもかわらず人影もなく、雲を衝く大杉、天に向かって聳えているような石州焼きの狛犬が印象的だった。

奥日光の山と高原地図、中国自動車道のガードを抜けると「日本ヒラミッド」の道標があり、右折する。葦垣山(葦垣山)を右に見送り、やや細まった舗装林道を終点に着いた。休憩所、トイレ、駐車場の案内板があ

り、比羅光神社の屋敷をくぐって葦垣山野谷ルートに入る。沢沿いに粗切な道標が続く、整備された道だった。最後の長い階段を登りつめると葦垣山と鬼叫山との鞍部に着く。休憩所と案内板があり、まずは葦垣山へ登る。10分足らずで頂上に着いた。まずまずのペースで、昨日登った大黒山が遥か、見下ろす山肌には鳥帽子岩(観音堂)などの露岩、すぐ下には天狗岩も見られた。謎の巨石群を秘める鬼叫山もすぐそこに写っている。ここが日本ヒラミッドの頂上だが、実感は湧かない。その全容を想像するのは一口鞍部まで戻り、鬼叫山のドルメンあたりで振り返った時だが、その前に日本ヒラミッドについて触れておこう。

少々謎めいた人物だが酒井隆宣という人が、ヒラミッド発祥の地はエジプトではなく我が国であると信じて、苦心のうえ昭和9年にこの山と巨石群が併れる鬼叫山を発見。神武天皇以前の2万年千年前、ウガヤヒ新時代に建造されたヒラミッドと発表して、当時大きな話題となった。葦垣山の頂からは彼の予言通りストーン・サークルの太陽石が発見され、彼自身も「太古日本のヒラミッド」を著述したが官憲により発禁とな

り、太陽石も破壊されてしまったという。葦垣山から元の鞍部に下り鬼叫山へ登る。すぐ正平な石のドルメンが現れて、振り返る葦垣山はまさに雄大なヒラミッドの姿だった。恐らく、葦垣山を神に見立てて祭祀した名残であろう。巨石群も次々と現れる。風化した自然石のようにも見えるが、明らかに人の手が加わったものである。少し方位がずれてはいるものの、東西南北を示す方位石などには驚かされる。その下には垂直に削られた大きな縦石がある。その前には、昔神武天皇の財宝が隠されていると、村人によって祀られた石塔が倒れたままになっており、一本だけが倒れずに残っている。それが神武岩で、上部にはこぶし大の穴が穿たれている。説明によれば、その穴に水筒を入れると太陽が鏡持に反射して、一種の光通儀のようなものに使っていたのではないかとあった。

東方を見ると御神山(新ハイキング誌関西版)1号54頁参照)が見える。太陽はほぼあのあたりから昇るのである。御神山の名前の意味がここにきて初めて判ったような気がした。この巨石群は太陽神を祭祀したもので、神武岩の穴は太陽の扉を衝いて供物を捧





なる。このあたりで初めて頭上に山が見えた。地図をひいて見ると802峰の高峰山であった。

丸木橋、飛び石伝いと目まぐるしく右に左にと渡り返して緩登して行く。沢が右へ大きく曲がるあたりから双子山の斜面を高く巻く。木の湖越しに滝が見えた。地図にある比布滝だろうか。杉の急登から自然林に入る。傾斜も緩くなり、林道深谷電線線の終点に飛び出す。上蓋鎖といわれるところらしく、下の方に滝が見える。上蓋鎖滝かも知れない。閉鎖したばかりなのか短削りの林道、その林道沿いの平木の流れには、幾つもの小さな滝がかかっている。

前方に青いテントを張っているように見えたが、近づくと腰巾であった。薄暗い杉林を抜けると立派な舗装道路になり、深谷川もコンクリートの水路となった。童謡橋からずいぶん長かったが、時計を見るとさほど長い時間ではなく、たったの1時間半である。やっとクマの恐怖から開放されて明るい日差しの中に出られた。ここに竜嶺溪谷入り口にあったものと同じ「クマに注意！」の立て看板があった。

余裕が出来てくると、たしか本誌の紀行の中で同様の立て看板云々といったことが

書かれていたことを思い出した。同じクマ

かあるいは別の奴か。掃きして調べた。本誌12号「鎌平と鹿」松田氏の文中に書かれていた。同じ10月8日で、平成4年のことであった。注意を喚起する狙いはいいが、そんな前のことは知らなかった。大いにビビって足早に歩かされてしまった。

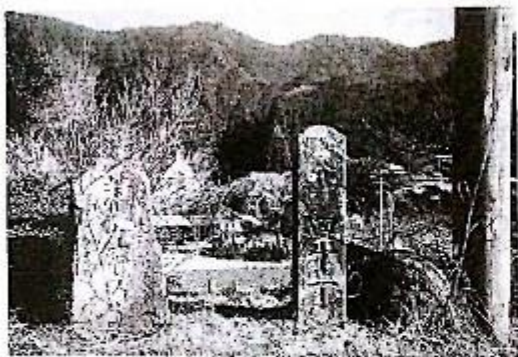
着いたところは仏隆寺から唐見(室生)峠を越え、室生火山の火口の一つといわれるカラト新池から下って来た林道カトラ線の唐見ヶ辻。初めて余裕をもって休憩する。室生の方からジョギングの人が登ってきて、仏隆寺の方から歩いていった。唐見峠から初めて出会った人間だ。

石仏のある唐見ヶ辻からわずかで、茅葺きのお堂に安置された。思から二つ折れになっていて、腰折地蔵である。

眼下に室生の集落が見える。周囲の山々を八景の蓮井にたとえ、それらに囲まれた蓮華の花の芯が室生寺という。室生寺そのものはまだ見えないが、少し坂きんで木立ちの室生山奥ノ院の上部と思われるピークが認められた。近道の道標につられて右の旧道をくだった。新道をくだった方が近かったようだ。

集落途中にある西光寺にもシダレザクラの古木があり、花の季節にはびびた寺も華やかことだろう。県道に下りる直前には松本文雄館は、地元の篆刻家が集めた古文書、古文物、茶道具などを展示しているが、学術的にも貴重な工芸品もあるという。見学したいと思っていたが、正月で休館であった。

みやげもの屋などが並ぶ門前から太鼓橋



腰折地蔵付近

を渡ると、大きな石仏「女人高野室生寺」が立つ室生寺入り口。入山料を納めて境内に入る。本堂、灌頂堂の左、杉木立ちの中に写真や絵画でおなじみの、増皮貫きの五雷塔が建っている。実物は写真以上に見事な五重塔であった。五重塔付近のシャクナゲは有名人が、ハズオウも回事と聞く。奥ノ院へは70段の急な石段を登る。一気に登るのはなかなか苦しい。奥ノ院から上は聖域ということで、室生山の頂上へ登れなかったのは残念だ。室生寺の参拝は国宝・重要文化財級の仏像、建造物など数多くあり、約1時間半を要した。室生寺建立の根本である水信仰の神を祭る室生竜穴神社は、今回は別荘として再び門前の中村旅館の横から東海自然歩道に入る。

集落内の道はわりによく、道標を拾って門守峠に向かう。集落を抜けると石畳の急坂、この坂の途中からも、腰折地蔵付近での眺めと同様、室生山と室生の山村が一望できたが、門守峠は薄暗い杉木立ちの中で眺めはなかった。

門守峠からの下りも足置が長く続く。この道は石が苦むし丸くなって滑りやすく、ピシラム底の靴は意外と歩きにくい。わらじならフィットして歩きよいだろう。杉、

檜の植林や雑木林の道が続き、石置が終るとゴロタラ石の道となり、車道に出るまでほとんどこんな道で終結した。

この自然歩道、眺めもなく登りも下りも快適とはいえないが、自然の道、自然歩道ということから高齢の単独行者、父親と小学生の親子連れ、若者2人、アベックの8人に会った。竜嶺溪谷では人っ子一人出会わなかったのに、やはり東海自然歩道という名称効果であろうか。県道に出たら左折、疾走する車に注意しながら朝通った蔵戸峠、大野寺と逆行して室生口大野駅に戻り、明日の伊勢の1等三角点跡の朝熊山登山に向け、今宵の宿松飯へ移動した。

(平成6年1月2日歩)

△コースタイム▽

- 近鉄室生口大野駅 (30分) 蔵戸峠 (20分)
- 竜嶺橋 (40分) 仏隆寺分岐 (40分) 林道終点 (30分) 唐見ヶ辻 (30分) 室生寺 (30分)
- 門守峠 (45分) 蔵戸峠 (20分) 近鉄室生口大野駅

△地形図▽昭文社「58赤目・倶利伽羅高原」

**ころばぬ先のピッケル**  
**アイゼンあれば憂いなし!!**

montbell **CAMP**

あったかーい肌着・フリース・上着をそろえ、貴方の登山をサポートします

営業時間 12:00~20:00  
定休日 月・火曜  
吹田市内本町1-23-7  
TEL 06-319-0597

# 山の専門店マウンテントラベル

平成6年7月

## 大阪駅前第4ビルに 大阪支店オープン!

～風景に囲まれて素晴らしい旅との出会い～

### ホテル・エベレストビューとともにお年

世界最高所に建つホテル・エベレストビューのお部屋からは、エベレスト、ローチェなどの雄姿が間近にご覧いただけます。

- ホテル・エベレストビューとポカラ  
 白目閣 毎週水・日売  
 1,2,3月 384,000円 4,5月 364,000円
- エベレスト街道 世界最高峰と  
 シェルバの聖日白閣 毎週水・日売  
 1,2,3月 330,000円 4,5月 332,000円
- アンナプルナ・パノラマヘリ・トレック  
 11日間  
 1,2,3月 394,000円～  
 4,5月 378,000円～  
 他、長期間、登頂などのコースも多  
 数ご利用いたしております。

### オーダーメイドでオリジナルツアーをどうぞ

山の仲間で作るオリジナルツアーは、信頼と実績あるマウンテントラベルツアーデスクまでご相談下さい。旅作りのプロが皆様のお手伝いをいたします。

ネパールでは、当社現地法人トランス・ヒマラヤンツアーのスタッフが、皆様をお待ちしております。

資料のご請求は  
 ☎ 0120-777802  
 ●全国どこからでも無料です

'95年4月からは、ネパールツアーはもちろん、ヨーロッパ、カナダ、アラスカ等のハイキングツアーやアドベンチャーツアー、またネパール・ブータンの秘境ツアーやミャンマー(バガンの仏蹟、ミートキーナ、シャン高原)など盛り沢山のコースを予定しておりますのでご期待下さい。

**マウンテントラベルツアーデスク**  
 主催 ヒマラヤ観光開発株式会社 東京大塚ビル1014号

東京/〒105 東京都港区新橋3-26-3 ☎03-3574-8880  
 大阪/〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500 ☎06-346-0360

## 連載

日本霊山紀行 18

# 青葉山

692頁

浅野孝一

青葉山は京都府の若狭湾に突き出ている大浦半島の付け根にある。安山岩で構成されている伏火山である。その正三角形の山容から「若狭富士」とも呼ばれている。「日本山紀行」は「青葉山(霊山)」「若狭富士(霊山)」「若狭大飯郡丹波国加佐郡二階山、大飯郡内浦村大字神野ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高一千三百七十六尺」と記している。奈良期の僧、空澄の修行の場といわれる若狭大飯郡が山中にあり、かつては女人禁制の山として知られていた。薬師大佛は白鳳十一年(682)頃、越前国麻生(福井市)に生まれたといわれ、大正二年(1913)文武天皇の勅により鎮座國家の法印となった。神皇正統(712)

白山にて修行基と会ったとの話が伝わっている。私達は9月上旬、片後の三俣山と大江山に登ってから若狭に入った。そして西條町の国民宿舎「城山荘」に泊まった。三日目に青葉山に登った。西條の海岸から海上にそびえる青葉山を眺めて、青葉山の東麓にある中山寺を訪ね、その上部にある若狭キャンプ場までタクシーに乗った。キャンプ場から樹林帯の登山道をたどり、高野からの登山道と合流して、ジグザグを登って展望台に着いた。6000坪の低山にしてはつらい急坂の連続であった。展望台からは東方眼下に若狭湾と西條の海岸が見え、小さな島々もよく見えた。意

小浜町の海岸から見た青葉山



山道は雑木林の間をたどり、小さな祠の前に出た。さらに登ってゆくと馬ノ背といわれている岩稜に出た。前方に青葉山の東峰が見えてきた。東峰には古びた塔があり、一石段下の岩頭に立つと若狭一帯の山々の雄姿が見え、東峰から西峰へは地形図を見ても近く、樹林の間から西峰も間近に見えた。しかしこれからが私にとって大変であった。東峰か



西峰にある青葉神社

と下りの樹林帯の岩峰を左側から乗り越え、そと泰澄大師の岩室があり、その先の岩場の下りは5分程度のクラックを鎖に頼って下るようになっていた。さらに登山道はほの暗い樹林帯内の起伏に落ち込んだ道を進む、岩の間をくぐったり、登ったり下ったり、約1時間もかけて西峰の明るい青葉神社前の広場に出た。

【若越齋堂】には「青葉神社（村社）青郷村大字高野の青羽山上にあり、伊弉諾命を祀る。養老二年養老大師、加賀白山比売神社の分霊を此の山の東西両峰に、東峰に伊弉諾尊、西峰に伊弉册尊、兼即比売神を鎮坐し、五穀成就の神願所と稱へてより本國の地主神社となれり、……」と記している。現在南麓の高野に本社、山上の社殿は奥社となっている。大きな社殿の左手に休憩舎があったので暑さをさげ、その中に入っ

て昼食にした。

神社の裏手は大きな岩峰となっていて、それに登ると若狭谷がよく見え、海と反対の空の下には、若狭の低山の広がりを見ることのできた。西峰一帯は修験道の山らしく少したつた所にもその遺跡があった。松尾寺に向かってみると、樹林の中のゆるい長い下りで、途中二か所クサリが取りつけられた岩場があった。

【若越齋堂】には「……高く峙つ故に國人之須彌に比べて彌山とも呼ぶ、四時の風光殊に佳ければ、古より名蹟の一に数へられ、山登りくして失れるは、村社の樹にもやはと思はるもの並ひ立ち樹木生ひ茂れること彌山の如しとて青羽山と名づけり」と記している。

京の権臣宮を治された後醍醐天皇の王子である八条王子は、この山を見て「富士なくば富士とや言はん、若狭なる青葉の山の雪のあけぼの」の歌を残している。

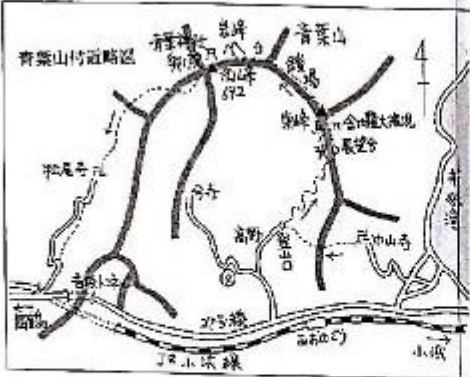
長い下りが平坦になると石の鳥居があった。そこからふり向き青葉山の四峰が見えた。松尾寺までは、さらに滑りやすい道が続き、ようやくの思いで寺の境内に入った。

松尾寺は西國三十三ヶ所の第二十九番札所、高野聖を本尊とする。寺の縁起によると、延喜十一年(912)神野前の海人春日為光が猿木に馬鹿を刺したと伝えられている。

又『万葉集』に「秋の路は移るにありけり、水鳥の青羽の山の色づく見れば」とあるが、この歌がはたしてこの青葉山を詠んだものかどうか疑問があると言ったのは言正五伯士である。

相んだタクシーが来るまで門前の茶屋で休んだ。タクシーで東舞鶴駅に出てから、急行に乗って夕刻早く京都に着いた。私達は泊り日の山旅をよろこび合ひ、京都名物のニンニクを食べてから新幹線に乗った。

(平成6年9月4日歩く)



**野外活動に伴う危険と対策**  
坂井 久光

夏季は濃密な藪で登頂の困難な山や高原が白銀の世界となると、その藪や氷は雪の下に埋まり、スキーや輪カンジキで自由に歩くことができ、冬の野外は楽しい季節である。

ただし、雪山を歩くのは疲労度が高く、長い距離はともなわれるし、吹雪や雲雨の危険もあり、よいことばかりではない。特に高層は山間の急傾斜面でよく起こり、その被害は多く毎年死者が絶えない。

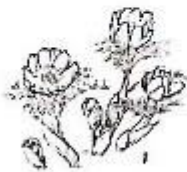
「朝は気温が上昇する午前10時頃以降に起こり、低温の早朝には起こらない。雪崩の危険性の高い谷間などの通過は早朝時が望ましい。」

又凍傷の危険もあり、濡れた手袋や靴下・衣類は着たままにしないで、常に乾拭きを用意して乾いたものを着替えること。低温下では蒸気で顔面を濡さないこと。皮がむけることがある。

吹き雪の時には行動を中止し、天候が朝に十分注意して無理な行動は慎むこと。

▲参考タイム

中山寺8時00分・西峰分岐9時20分・腰置台10時10分・東ノ輪現10時50分・11時・西ノ輪現12時10分・12時40分・腰置13時45分・松尾寺14時05分  
▲地形図▽2万5千青葉山・東舞鶴



新ハイキング選書

●日本山岳会選定●

第15巻 好評重版発売中  
市川静子/岡田敏夫/岡部紀正  
川越はじめ/廣澤和室/共著

第16巻 最新刊  
日本二百名山ガイド《東日本編》  
日本二百名山ガイド《西日本編》

各 A 5判 320頁  
定 価 1600円

発行所 新ハイキング社  
東京都北区池野川7-6-13  
(03)-3515-8110  
振替東京3-145915  
●表紙での二法又は送料当社負担

野外塾

● 雪 洞 作 り

関西アウトドアスクール  
校長 二名良日



冬の山行で気がかりなことは、アクシアントやトラブルで道に迷ったりして、雪中で夜を過ごさねばならなくなった場合の対応です。

アルプス級の高い山だからその確率が高く、低山ハイイクは安全……ということではなく、ガスに巻かれたり、道標が隠れていたり、メンバーの誰かがネンザをした……というような、ほんのちよっとしたハプニングから、不測の事態が起こります。特に、中高年・女性グループなどは、体力的なハンデがあるので、より一層慎重な注意が必要ですよ。

夏山でも疲労死がありうる（知床岳や雁口岳のヒバークで、痛感しました）ので、すから、雪と寒風のきびしい冬山でのサバイバルは、並大抵ではありません。

どんなパーティーにも起こりうる、雪山の遭難の対策について、基本的な対応と、具体的な対策のうちで最も有効な方法の一つと思われる「雪洞」作りノウハウについて、体験情報的に、整理してみたいと思います。

基本的な態度

道に迷ったり、予定が遅れたり……するなどして、雪の山野で夜を過ごさねばなら

等々のサバイバル行動を、メンバーの良き理解のもとに、やりきらねばなりません。

緊急事態下での、野営地の選択は、生火を分ける最も重要なポイントで、稜線ヤセ尾根での大雪山岳部活者の死、杉林樹林地帯での老人の生火、雑木林雑木帯での石巻の死……その他、貴重な犠牲を招いたケースを、よく頭の中に入れておいて、あとはその場の状況にあわせて、判断するしかありません。

そして、そこでどういう寝かたをするかによって、生火死かの岐路が別れてくるわけです。

雪洞作り

テントが有っても強る場所によってその性能に差がでます。テントの無い野宿の場合には尚さらで常緑樹の枝下・大石の陰・洞窟の中（サンカの池）などは、火を燃やし、その暖き火や伝導熱で、腰をこすり……などが利用できれば、大きな違いが出てきます。

冬に普遍的な方法としては、どんな所にも均等に積もる雪を、資材材料として活用する、地形等に左右されない「雪洞」が最

もポピュラーで有効です。

雪が十分に深く積もり、駆け回って硬さも強度も十分な、冬の終わりから春にかけては、雪スコップ一丁あれば、雪洞掘りは簡単です。

一方、バサバサで、量も不十分で、初冬の新雪は、雪洞作りには不適ですが、何とか工夫して作らねばなりません。

① 安全で、積雪の多い場所を選ぶ（ナダレと、吹き溜まりに注意）

② 足りなければ、周りの雪を集める（カンジキで踏み固め、カマクラ状に。箱・穴でイグルーブロックを積層する方法も）

③ 入り口を決めて穴を掘る（風向き・便利さを考慮し、大きくなりすぎないように）

④ 雪スコップなどで掘る（一本は必須！無ければ、板・雪ペラ・ノコギリ・ナタ……で）

⑤ ブロック状に切り出す（粉々に砕くと、作業量が増える。大きな塊だと断崖がよい）

⑥ 壁を掘りすぎないように（中心に竹箒を立て、等距離に、カマクラ作りの要領で）

⑦ 最小限のスペース（単独行なら、腋を抱いて座れる空間でも十分）

⑧ 入り口をふさぐ（シート・フロシキ・新聞紙・ビニール……などを入り口に垂らす）

なくなつた時の、基本的な心構えとして、大事なことは――

- ① あわてないこと！
- ② 余力の温存！
- ③ 適切な野宿！

――というように、冷静で強い気力に支えられた、余裕のある計画的な判断と、良きリーダーシップ・メンバーシップ・信頼……等の、要するに、きわめて基本的な（心理）行動的に安定した態度が、求められるわけです。

特に、リーダーの役割は大きく――

- 一、状況を正確に認識して、メンバーの不安と混乱を鎮静化させ
- 一、やみくもに、暗くなるまで動き回ったりせず、体力の温存を計って、早目にヒバーク適地を選定し
- 一、心身両面に有効な火を燃やし、温かい高熱量の食事をとって、体力を補強・温存し
- 一、その場に最も適した、暖かい野営方法を選択し
- 一、冷えこまないうちに熟睡させて、疲労を回復させ
- 一、寒さで眠れなくなったら、火力を補強して、夜明けまで頑張らせ
- 一、早晩と共に脱出下山行動に移る。

⑩ 保温（集土着・毛皮・雑草・セーター・ヤッケの順で。寝袋・ボケットに使い捨てカイロを。ローソク・コンロも強力）

⑪ 換気（注意！（換気穴の開閉。コンロは断熱的に、換気・ガス中毒に注意！）

⑫ 断熱マットを（マット・ダンボール・ザック……で、低温の地（部と遮断）

⑬ 靴を凍らさない！（濡れた靴は、凍ると履けないので、寝袋の中や膝下で温める）

⑭ 寒さ対策（タオル・フロシキ・シート……を首に巻いたり、頭を寝袋の中に入れたり）

⑮ 凍結防止（冷えこむと、吐息が凍り、通気性の悪いカッパは、逆に汗で冷える）

⑯ 熟睡（暖かい時に熟睡し、疲労回復）

⑰ 野宿印（目立つ所に、赤布のサイン）

以上のようなチェック・ポイントを、いつも頭の中で演習しておき、現場でメンバーやワールドの状況に合わせて、修正して行けば、万一の危機にも、あわてず対応できるかと思えます。

アラスカのイメイトとの「イグルー」作りや阿仁・奥利根・根池での「カマクラ」作り……も、「雪洞」作りに重なる部分が多かったので、またの機会に報告します。

叡山三塔十六谷 ①

雲母坂から東塔

前中 毅

京都北山



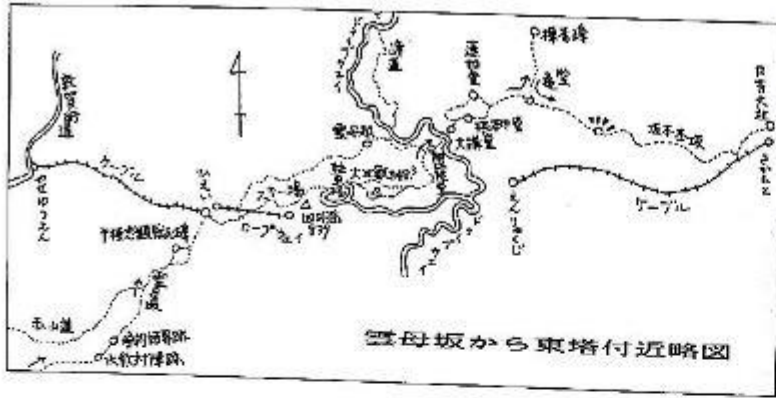
水飲対陣跡之碑 (雲母坂三合目)

山歩きをはじめてからたびたび比叡山へ登り、延暦寺に興味を持つようになった。私は宗教に対しては傍観者で、もちろん延暦寺や天台宗には縁もゆかりもない。が、日本の歴史に、功罪交えて影響を及ぼしてきたこの山が有する歴史や伝説のロマンは、私の探究心をかきたてて止まない。

最澄(伝説大師 今「Shōjō」)が開山して以来、1000年になるこの山と、ほぼ同じ歴史を持つ平土京の、律暦1000年の記念の年(平成元年)に、延暦寺のお堂廻り山行を計画した。山上と、山麓の京都や大津との間には今も幾つかの道が残っている。それらの古道を歩きながら、過去の栄枯を運び、現在の姿を見ようと思う。

天台宗総本山の叡山延暦寺の広大な境内は、三塔、すなわち東塔、西塔、横川の三つのエリアで構成されている。この山は三塔を一周する所定で、スタートの今日は東塔を中心としたコースを歩く。

聖徳太子院から音羽川の左岸を東進して雲母坂を目指す。今日は雨で、京都はこの時期が最も寒く、今も雪が散らついている。正面には、何時か後に登り着く予定の四明岳(839m)が鉛色にかすんで見える。「さらさら坂」の碑がある登山口でスパッツをつけて登りはじめる。叡山と京の都を結ぶ幹線山であった雲母坂は、千古の歴史を物語るとして、V字型に4〜5分



雲母坂から東塔付近略図

右手の笹の中に、海、別荘跡、なる石陣があるが、山と里との境界であった。激しい飛行と修行に用いた杖行僧が、これより下方へ下ると破戒僧の烙印を押されて、山から追放された。

標高「京都一周トレイル東山73」の立つ分岐を左へ入る。傾いて崩れそうなる石段を上りきった丘の上に、「千手聖母御戦死之地」の大きな石碑がある。後醍醐天皇軍の将、千手聖母が足利軍と戦い、ここで敗死した。

丘を越えたあたりから積雪量が増えて雪もやみそうにない。破れ小屋に入りインウェアを着て、アイゼンを装着したが、不用意にも手袋をぬいで作業をしたので冷えきって、しばらくは両手の感覚が戻らなかつた。

左前方が開けた所まで来ると北風がまともに吹きつけ、地吹雪や樹木から大量に落ちてくる雪で目をあけていられないくらいだ。視界は10分ほどだが、歩き続けた道なので冷怖に行動すれば心配はない。ケール比叡駅の展望地に着いたが吹雪でなにも見えない。逃げ込むようにして駅舎へ入る。ストーブに火が入っていないが、建物の中は暖も無い。はっとする。保温ボ

トルに入れてきたせんざいを食べる。甘く温かくてうまい。体中にぬくもりがひろがり、気力と余裕が戻ってきた。

風がおさまってきたので閉鎖する。スキー場の方へ登るのだが、ここは雪が踏み固められてアイゼンの爪がよく効く。カサマ、サックとリズムミカルな音が心地よい。スキー場の手前で右へ登る。四明岳展望台を右に見て、山頂駐車場に着いた。白一色の世界だが、軽食袋が一軒だけ営業していた。おでんの煮えるのにおにぎりやビールを連想して誘惑されそうになるが、先を急ぐ。

車止めの鎖のある林道をラッセルして登ると、70分ほどで京都・滋賀の府境境だ。右の小道に入り、すぐの分岐を左へ。台地に盛り上がった小山に登る。翰林に囲まれた狭い山頂だが、ここが比叡山系の最高峰で、1等点大土敷(848.3m)だ。雪の下から三重点標石を掘り出して写真を撮り、昼食にする。

コンクリートの礎石物を横に見ながら東へ進む。道なりに左へ下ると林道で、NTTの電波塔の左から山道を下る。三角点から90分ほどで雲母坂からの道と合流する。そこには法華経持院が待っていた。朱色の柱と黒色の格子を待つ回廊が、雪に映

えて美しい。延暦寺の中心部である東塔の北谷に入ってきたのだが、お登廻りはいよいよクライマックスを迎える。

阿弥陀堂では、「又六の阿弥陀」と呼ばれている巨大な金色の仏像が堂内を圧していた。広い石段を下ると、左に戒壇院(重文)があり、さらに下方の右手には赤い鏡樓の平和の鐘、そして左手には大講堂が並んでいる。この山の教育の中心である大講堂の中には、最澄や桓武天皇など、叡山の発展に貢献した高僧や権力者の等身大木像が安置されているのだが、中でも鎌倉期以降に開宗された仏教各宗派の宗祖の像が、一同に会している様子が目をひく。

叡山は日本仏教の母体、源流などと言われているが、法然、親鸞、栄西、道元、日蓮など、すごいメンバーがこの山で修行して興立っていった。このような偉大な人材を養成した実績は他に例を見ない。

最澄が著した聖典、「山家学生式」を基に、この山が構築してきた教育制度は見事だ。修学のフィールドが三塔十六谷で、それらを現代の大学の組織に置き換えると、塔は学部、谷は細分化された専門コースといえるだろう。三塔はそれぞれに大講堂があり、十土谷は地蔵であって地形上の溪谷

ではない。これで根本中堂周辺の塔堂をほとんど見て回った。一息入れる。そば阪のまる和食堂に入り、一息いそげと熱湯を「と注ぎます」。

留置所は延暦寺会館の先から坂道を下るのだが、当の量が少ないので助かる。法然堂を右下に見て左へ下ると、左手に鳥空がある。小堂の前には銅製の餅が地の背に乗っかるように立っているのだが、何故かこの他は犬の頭を持っている。



根本中堂の宮

を指すものではなく、各谷が中心をなす堂塔を持った。このように地蔵宗では類のない大きなスケールと、徹底で実質的なシステムとが統々と名僧、僧侶を生んだ。

大講堂を出て裏へ回ると、置徳院と前庭が並んでいる。前庭には「慈光法師・三代天台座主」が屏から持ち帰った貴重品を納めたお堂だ。屏面の細い道を下って根本中堂(国宝)の横へお入りだ。

延暦寺の顔ともいえる根本中堂は、雷の杉木立の中に重厚なたたずまいで建っていた。現在の建物は徳川家光聖蹟興(1645)したもので、天台宗の代表的な遺構だ。中へ入って廊下を歩いて奥へ行く。外陣

から下へ下ると下の内陣を見る。内陣中央の大厨子の扉の中には、最澄自作と伝わる秘仏、薬師如来が安置されている。今年(平成6年)は初代根本中堂の創建から1200年とのことだ。10月に公開される予定だ。厨子の手前には三つの灯籠がゆらゆらしているが、これが「不滅の法灯」で、開宗以来、1200年間消えることなく燃え続けている。

石倉の最澄は、墮落した僧侶(公良)仏教に失望して、清新な仏道を求めて單身叡山に入り、28歳の延暦7年(788)に

他堂の後へ、延びる道に入る。円仁の墓所を訪れる道だが、ハイカーを含めて一般の人にはまず歩かないだろう。往復1.5ほどの短い道だが、山好きの人が一歩足を踏み入れたら、機会を得て再訪したくなるような素晴らしい道だ。これで、「心に染みる叡山の道」と紹介したい。円仁の墓所までの中は、木の根道の左右に100基ほどの墓がある。墓標にはいすれも、探訪との刻子があるが、それぞれにこの山で一時代を築いた高僧達がここに眠る。幹まで古に覆われた大杉や檜の大樹が改る種芝居に替くと、扁石の山に雲道をめぐらせ、た円仁の墓があり、花が供えてあった。

往復20分ほどで他堂に戻り、坂本へ向かう。杉や榎と椎木の混交林を音が響く。一人歩きにはもってこいのこの道は、本坂とも表坂とも早はれ、坂本から延暦寺へのメイン参道だった。ケーブル(昭和2年)やドライブウェイ(昭和41年)の開通で、今は人の混雑もなく寂れてしまったが、所々に残る石灯や雲霧の石垣が、往時の賑わいを思い出させている。

叡山の麓の近くには左が開けた展望地がある。ようやく晴れ間ののぞき、近江平野や琵琶湖の両部が一望できる。近江大森の手

この地に延暦寺の前身、比叡山寺を開山した。その後唐使の一員として唐へ渡り、天台宗で学んだ。その頃桓武天皇は、南都の仏教勢力に國政の中核を侵されていた平城京に見切りをつけて、遷都を決断した。長岡京を経て平安京に本拠を移した天皇が、清僧最澄の真摯な求道の姿を見て手厚く保護したこともあり、天台宗は新しい時代の幕を開けるべく胎出した。

根本中堂を出た所に宮沢賢治の歌碑があるが、叡山を愛した歌人や俳人は多く、山内のあるところに碑がある。歌碑の左へ進むと維持坊で、今は改修中だが、正面の軒下にはユニークな額が掛かっている。それは、一つ目で一本足の僧が鐘を持った絵が描かれた「二眼一足の僧」だ。

右へ回り込んだ左手に、本願寺中興の祖、蓮如が五年間念仏修行に励んだ蓮如堂がある。さらに右へ進むと、大黒天堂や護国親王道場のある広場へ上がった。ここでやっとアゼンが外せた。

石段を上ると、延暦寺の総門の役目を果たす文殊楼(重文)がある。私はこの洗練された建築が好きだ。垂直に近い急な傾斜を上がった、樓上から琵琶湖を眺めるのが楽しみだが、今日は曇りの期待は

前に突出した山の先端に高層ホテルがそびえているが、千古の道から近代化的な建築物を見ていると、この地に、今と昔が同居していることをあらためて認識させられた。

若人の元気な歓声や水音を演奏する音が聞こえて、やがて林道にクロスする。なるもすると右下には叡山山頂が見えてきた。学校のフェンスの脇を下り、日吉大社の前へ出た。

朝からの厳しかった天候がまるで嘘の上うで、穏やかな青空の広がる坂本の町が、今日の山旅のフィニッシュとなった。

(平成6年2月3日歩く)

△コースタイム▽

叡山修学院駅(25分) 雲母坂登山口(1時間25分) ケーブル比叡駅(45分) 大比叡1等点(45分) 根本中堂(1時間25分) 坂本日吉大社(10分) 京阪坂本駅(10分) JR 坂山駅

△地形図▽ 昭文社「京都北山」

○ 平成6年4月頃から、延暦寺が10年ごとに実施している備後工事のため、本坂の展望地付近から坂本間が、林道状に変更されました。





外使所は清潔で、前庭には一、二の長腰掛もあった。あのジサマが住職なのだ。と、後で知った。

8時45分に着いて、10分休んでから、山門を出て、右に登り一段上の広場に、だいぶ荒れている本堂と、左手に重文の多宝塔、右手に大雄堂を見る。その右奥に開基、役の行者堂があるが、棚内に立ち入ることはできない。

本堂左手の湯屋谷への小道は、空鉢の峰の東側を、ほぼ水平に越えてしまうので、適当な所から杉林の中を、バックするように登ると、鷲峰山頂である。僧寮遊が修業



中、空の鉢を天空に投げたところ、鉢が入って空中に戻った。と、いう。断食修業の熊鷹を、如実に表現した山であり、空鉢の鉢の由来とされている。重文の大きな宝篋印塔も、最近作の石厨子がある小広い頂上は、周囲の樹木が繁茂して、眺めは無い。南に石段の参道があるのは、西腹の林道からの正面道であるが、地理院が二角点特定地を鷲峰山と登録したので、いつの間にか二つの名称となったが、広い意味で、一帯が金胎寺境内の鷲峰山なのであろう。

20分滞在した空鉢の峰を、今登ったルートを下って、湯屋谷道を向う北に行くと、

迎えに来た一等三角点研究会の第一代会長三谷啓男さんと出会う。

すぐに鍾養林道に出て、正面に見えているパラパラを自指して行くと、マイカーで登って来た「京都・滋賀南部の山」の著者内田嘉弘さんが待っておられ、鷲峰山無縁止継路の要手にある三角点峰へ案内される。見晴らしのいい、狭長な頂上に約32天淵点、その奥に681・2層の一等三角点標石、その後ろは杉植林帯だが北方に宇治田原を開き郡市界線が見え、あれが何々、その右が何々と、指呼してくれ、南東方の低い連なりを指して、一等三角点の神野山です。と、いう。

この頂上では、新ハイキング関西の主幹、村田さんも待っておられ、一行を接待する用意をするからと、三谷さんと一足先に下山される。

昨日の雨が早朝まで残ったが、原山を出る頃には雲玉い本曇りとなり、三角点峰では、かなり速くまで回復するようになった。風は無いが、正月の山はやはり寒い。15分で頂上を降り、鍾養林道を今来た方に備か戻ると、小さな標石によって、右の湯屋谷ルートの山道に入ったのは10時25分。細い杉林の中の下りは、岩盤の狭い溝状と

なり、25分程で壊れオートバイが放置されている所を通ると、少し歩き良くなって、赤松の明るい4・10号小丸に出ると、真下に神社と、正面に茶畑が見えてきて、地図通りに左曲し、最後に急降して茶神明神社に着いたのは11時20分。無人なれども立派な休憩棟もあったが、旅籠ぎされていた。

大きな永谷武蔵殿影禊には一湯屋谷は江戸時代の元文三年(1738)青製煎茶法という画期的な新法を創案し、現在に至る不朽の功績を残した茶宗明神、永谷宗園翁出生の地であり、その後裔永谷武蔵は四柱の啓示により、お茶漬傳言に著目して、その製法に成功、日本の食生活に新時代を画す「云々、昭和六十一年七月」と、ある。

神社及び神苑を改築寄進した由来文で、すぐ下方に宗廟の生家が復元されて、茶道の修業研鑽に利用されている。

村田さん達が用意した温かいおでんと、ビールを振る舞われ、ほろよい気分です。茶宗明神社を12時ジャストに辞す。

湯屋谷の里から京の社寺

役場からの報告で、湯屋谷発12時のバスは知っていたのだが、バス等まで15分位かかって、すでに発車した後であった。

湯屋谷の里は、土蔵の崩れが見える旧家や、大きな家があり、切磋しに茶製造工場を見たりして、国道307号線に出て、運行本数が多い工業団地バス停に、12時35分に着いたが、次のバスは13時21分発なので、近所の茶製造所をいっしょくたした。

この日の午後は、宇治平等院の庭園、国宝の鳳凰堂に阿彌陀仏を拝した後、有名な宇治川先陣の碑から、宇治川を渡って宇治上神社、興福寺等を拝観して、十三山塔を見てから京都市美術館のホテルに泊まった。

翌日は、平安神宮、金地院、南禅寺、法然院、銀閣寺と拝観して、3日間の京都の旅を終わった。

(平成5年1月15〜17日)

△コースタイム▽文中を参照

低山登山〜本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

**とスキーのヨジミ**

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06(772)7231

JR天王寺駅 北出口右へ 徒歩橋渡ってスグ

# サクラグチ

松田敏男

鈴鹿

サクラグチから見た御在所岳(左)と鎌ヶ岳(右)



「新ハイキング誌関西版11号」に内田嘉弘さんの紀行で「サクラグチ」が載っていた。この変わった名前の山は、昭文社のエニアマツには記されていない。三角点があるのみである。しかし地図を広げて、雪の季節に行けばその山はいい山ではないだろうか、とその山名を知る前から予想していた。なぜかと言えば、9000mを越える高さがあり、ひとつの山塊を成している。周淵を縮向山や雨ヶ岳、御在所岳に鎌ヶ岳、仙ヶ岳など鈴鹿中部の山々を取り巻いているからである。雪の季節なら木の葉も落ちて、積雪があるぶん地面も高くなっていくから、展望が良いのではないか。北面は国定公園だから植林もなく、雪中登山の願

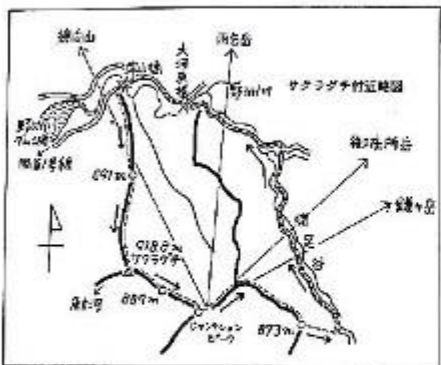
望も味わえるのではないか。下山は山頂よりひとつ東の尾根を下れば車止めまで戻るのは近い、などといういろいろな角度から地図を分析し、雪の季節の山行案のひとつとして、2003年越しにあたりためていた。それが本誌に載ったものだから、次の積雪期には行ってみたい気持ちがさらに強くなった。

その日の山行集合地点の山科で、リーダーの大山さんが鈴鹿の獅子ヶ口を北の尾根から雪中登山をしませんかと提案された。あらかじめ集合で行き先を決めていない山行だったし、絶対に今日はこの山をという強い気持ちでもなさそうに思えたので、獅子ヶ口よりなお一層地味な存在のサクラグチ

への希望を言ってく、すんなりそれに決まった。

内田さんの紀行文によれば、山塊の南西方向の尾根からの登路を往復されているが、山名は重なるけれども全くコースが違ってくる、紹介したいと思う。

前日は京都にも雪が舞い、北山などもめずらしく白くなっていたので、入山地点まで確実に車が入れるかどうか、それが心配



なくらいだった。だから山に取りついたら雪の中をラッセルしながら進めるといいうりすりした期待感があった。一旦車を走り、鈴鹿峠の少し手前か左に入り、野洲川支流の田村川に沿ったのち、ちよっとした峠を越える。行く手右方には仙ヶ岳と山が見え始めるが、そんなに雪はない。拍子抜けである。京都北山が出たのだから、野洲川ダムにさしかかる。予定では、ダムの手前で集落が終わるから、ダム沿い

の坂は雪が凍ってしまつたまま、真は上がらないだろうと思つていたので、スイスイと進んで登り口と決めていた深山橋のたもとにあっさりと到着してしまつた。あっさり到着できたぶん、目の前に張り出している尾根には雪がない。

しかし裏切だ。それは車道に張り出している尾根の基岩に車を置いて、第一歩から山に取りつづける気分が、である。暗い樹林帯の——国定公園内だから植林されていなしという予想に反して——植林帯にしてはかなり急な登り口に足を踏み出しなが、マもやはり、きょうはいい山行のスタートだという満足感が湧き上がり、歩程も速まりそうになつた。

歩き始めは少しだけ残っていた雪が、やがて足根上に雪がついていゝ急登に変わつてきた。植林はいただけないが、雪を踏みならすとそれと見えない風景になる。急坂を登り、向こう側が見える舞々感のよふな所に出た。そこには欄があり、尾根と木々が別々になつて、しかも尾根はひっくり返つて雪の中に埋まっていた。何があつたのだろうか、この急な尾根は古の道

高度を上げるにつれ展望が開け始めた。

遠いが鎌ヶ岳の鋭い頂はなかなか見事だ。今までのいろいろな方向から鎌ヶ岳を見ていたが、ここから眺める形が最も急峻ではないだろうか。青い空にぼんやり浮かぶあたかような雲の、雪も深く、その分快進歩は進んでいく。

傾斜が緩くなって山頂が近くなると、残雪ながら杉の植林になつた。雪の中、6人が数々になつて三ヶ点を探したが、雪から振り出すことができず、そんなことが目的ではないからと口にしなが、切り株を三角点に見立てて、わが会の儀式をする。それは今昔は手を出して、イチ、このサンで片足を三角点に乗せるのだ。これが成功してはとひと息、この無名に近い山道のない雪山に送られたことに満足だ。山頂の東側によつとした切り開きがあるが、展望があまり良くなく、もつといつては食糧はしようとして、東に進む。植林が続いていて展望が得られないまま、西側に延びている尾根のジャンクションポイント8800m付近まで歩いてしまつたが、それを少し下つてみると思いがけない大展望が待っていた。

カヤトの斜面が大きく広がっており、目の前には左より縮向山、大きな山体の雨ヶ岳、御在所岳、いちばん右は先尖鎌ヶ岳が、

大阪支店オープン記念企画!  
**九州百名山と世界の山** ハイキングから  
 登山サミットまで

※全コース大阪発着科会です。☆他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。(無料)  
**ニュージーランド (ベストシーズン) 188,000円より!**  
**マウントクックハイキング 6日間**

- ◆期 日 ①1995年1月24日(祝)～1月29日(祝)  
 ②1995年2月07日(祝)～2月12日(祝)  
 ③1995年3月25日(祝)～4月12日(祝)
- ◆代 金 ①1ER,000円  
 ②1ER,000円
- ◆食 料 食事の(朝食)3回、夕食4回、夕食2回)
- ◆乗 車 40名様限定(最少乗車人員20名様)
- ◆ホ テ ル T.M.C.ハーミテージホテル・ロックスラム
- ◆リーダー 同行します
- (Mt.クックの魅力)**  
 クック村からは、北側のきざんた山(大雪山)の峰(ニヤン  
 アルプス)の南峰、マウントクック(3,067m)があり、その周  
 圍を山岳帯がとり囲む。村から山を歩くと、澄んだ空気をい  
 つぱい吸いながら、ハイキングが出来ます。トランキング道  
 に咲く色々な種類の野花を見ながらのハイキングも楽しめます。
- コース① ①大湖(湖西)②ツワル③④のライストマヤチ  
 ⑤ライストマヤチ⑥クック村(敷)⑦マウントクックハ  
 イキング(ツワル)⑧谷コース⑨マウントクックハイキング  
 (ツワル)⑩コース⑪ライストマヤチ⑫ツワル  
 ⑬大湖(湖西)

九州の 離島 シリーズ	宮之浦岳と縄文杉 <b>鹿児島県</b> 3月23日(祝)～26日(祝)4日間 98,000円	大分・ 熊本 の名峰	祖母山から傾山縦走 <b>大分県</b> 3月29日(祝)～4月2日(祝)5日間 59,000円
	五島鬼岳と七ッ岳 <b>長崎県</b> 2月2日(祝)・3月11日(祝)出発2日間 46,000円		阿蘇五岳 (伊予志・奥山・伊志) <b>熊本県</b> 3月1日(祝)～5日(祝)5日間 49,000円
	対島有明山と白嶽 <b>長崎県</b> 2月4日(祝)・3月9日(祝)出発2日間 46,000円		九重と阿蘇の最高峰 <b>大分・熊本</b> 1月26日(祝)～29日(祝)4日間 28,000円
宮崎・ 鹿児島 の名峰	大隅半島 大隅半島 大隅半島 大隅半島 南与志岳 南与志岳 南与志岳 南与志岳 と桜島温泉 <b>鹿児島県</b> 2月9日(祝)～12日(祝)4日間 48,000円	東南アジア 最高峰	ゆったりプラン キナバル山登頂6日間 3月27日(祝)～4月1日(祝) 全食事付・リーダー同行 168,000円
	尾鈴山と市房山縦走 <b>宮崎県</b> 3月9日(祝)～12日(祝)4日間 36,000円		アフリカ大陸第2の高峰 ケニア山レナナピーク登頂8日間 3月5日(祝)～12日(祝) 全食事付・リーダー同行 368,000円
福岡 の名峰	釈迦が岳縦走と英彦山 <b>福岡県</b> 2月16日(祝)～19日(祝)4日間 34,000円		

◆お問い合わせ・お申し込み先  
**アミューストラベル 株** 06-265-3303  
 〒541 大阪市中央区本町4-5-3 FAX 06-265-3306  
 本町三井ビル2号8F  
 詳しい旅行内容、条件はパンフレットで、ご確認ください。  
 日本旅行業協会登録 運輸大臣登録 一般旅行業 貸付業 旅行代理店  
 主要システムアーシステム株式会社 運輸大臣登録 一般旅行業 貸付業

すっかりと瓦解させた。北側の雪の大組面の中、どこが平らだろうかと、また6人が今度は岩々として登山道地を求めて歩いた。まあ、どこでも良かった。雪をならして平らにすれば、どこでも似たようなものだ。でも突然の風切にそんな場所探しさえ楽しくてしかたがなかった。さんさんと照る太陽のあたかな冬の青空のもと、まるで鉛塵の大自然に悠然と私たちが見つめら



サクラグチから見た雨乞岳

△地形図(2万5千) 1. 土山・伊船 昭文社「45御在所・練ヶ岳」  
 △コースタイム ①深山(2時間) サクラグチ(2時間) ビーク(2時間) ②時間 20分 深山(2時間)

れている気がした。枯林をして、大満足の登山タイムに時を忘れる。  
 屏風後、そのまましばらく進んで下山と考えていた尾根の分岐に出たが、道もなくこのまま尾根を下ると、雪がなくならないからヤブの状態が分からないことや、冬の一日は短かいこともあって、東へのピーク8733まで行って後尾谷の林道へ下ることにした。その猪足谷の林道がすぼしかった。林道から見上げる雨乞岳の姿も感動だった。南アルプスの3000m級の山を遠想してしまおうな感銘だったのだ。ササの上には積ったわずかの雪が岩に見え、灌木帯が遠くに見えた。スカイラインはすっきりとしていて、大きく盛り上がった堂々たる勇姿、波いアルプス坂の山。それは聖岳に見えたのだった。  
 (平成6年1月23日歩)

**お知らせ** 新ハイキングツアー開始  
 山行計画の実施について  
 当会の山行計画にご参加される場合には保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施計画の7日前までに規定通り、往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要があるかもしれません。また山では如何なる事態が発生するかも、必ず緊急連絡先も記入して下さい。その他、山行計画の欄に記載してあることは必要があつてのことです。必ずお守り下さい。  
 申し込みの返信は細目が決まり次第遅くとも10日前までにはします。早くから申し込まれた方はしばらくお待ち下さい。山行計画に記載してあるグレイドは常日頃、多少は山歩きに親しんでおられることを前提としています。  
 (初級回)となつても歩けます  
 (一般回) ハイキングの標準コース  
 (中級回) かなり経験ある人のコース  
 (やや健脚回) (健脚回) は、危険な所があり、キツイ登りや、下りが長く続くコースと、ご理解下さい。

# 野の花讃歌 (7)

市川 正次朗

## 団地に花は残るのか

私の住まいは京都市と大阪のちょうど真ん中あたり、枚方市南部の香里団地です。日本住宅公園、今の住宅都市整備公団が昭和30年代の初めから建設をした、当時は東洋一といわれた大団地です。

この場所は戦時中、陸軍の軍需工場があったところ。40歳代以上の方なら「つづりかた兄弟」という映画を覚えておられますね。藤原久弥(枚方市出身)、朝月優子、乙羽信子、香川京子らが出演、主演のふーちゃんこと芳雄少年は、当時子役だった頭師孝雄が演じ、子供心にも涙をぬぐった映画です。その舞台が建設路上の香里団地でした。

それから早や40年近く、公園ではこの団地の建て替えに着手しています。庭付きの二階建てテラス住宅が五階建てまでの中層住宅、隣と隙の間でゴルフの練習をする人がいるほどの広い空間は、土地の有効利用という点からすると余りにも不経済という

わけです。

他の団地に比べて自然が豊かただけに、イヌフグリ、ミヤコグサ、ニワゼキショウ、ネジバナ、アザミ、ノギクなど四季折々の花が咲きます。また団地在住の植物研究家によると、コケリンドウ、クサレツマといった稀少種も確認されるといいます。



中高年の温泉登山団地に花は咲く

## 中高年の温泉登山

私たちのグループ、実は五十歳前後のいわゆる中高年登山者の典型なのです。これまで育てに懸命で、やっと自分の時間が持てるようになった時、「言ひ合わせたように自然と花。つまりは、山で納得しているのです。

常日頃は、あの分厚い山溪の「大阪周辺の山」や「新ハイキング関西版」で紹介される近辺の山へ出かけ、それぞれ味わいある山容、花の植生などを楽しみながらマイペースで山歩きをしています。

それでも「3月になる」と誰ともなく信州へ。「もつと花が見たいから」「元氣な間に高い山へ行つとかなければ」との声がコンセンサスとなって、3、4泊の行程で出かけます。花がいっぱいの尾瀬や北湯道の山は、それほど高くないから歩いてからでも行ける、高い山は若い(?)うちでないと行けないからというのが大方の意見。

リーダーは「大丈夫かいな」と心配しながらも、メンバーに無理のないよう、余裕をもったプランを考えてくれます。しかも中高年にはうれしい温泉つきまで。

一昨年は白馬大雪渓、白馬、大池、樹池(八方温泉、昨年は広河原、北岳、奈良白(芦安温泉、こじは火打、妙高、森宮、きつき下って来た山をながめながら、露天風呂で汗を流す気分は特別。同じ山をやって仲間との梨のふれ合いが、何ともうれしいのです。「いつまでも元気だ、山に登りたい」という気持ちが高の溜もりとともに伝わります。

## 京都北山

やぶ漕ぎ痛快山行記 (18)

# 伏状台杉の群生地を求め 井ノ口谷山の稜線縦走

京都バス広河原線の終点一つ手前の香原町バス停で降りる。バス停前の柱川に架かる菅原橋を渡り右へアスファルト道を西へ進む。アマノ産産場を右に見て集落外れのホトケ谷の分岐、右はダンノ峠から鹿村八丁へのホトケ谷林道、井ノ口谷山へは左より谷林道へと進む。車止めのクサリを越え北山杉に囲まれた地道の林道を30分程歩くと林道終点に着く。オリ谷を左岸へと渡り谷沿いの山道を通る。踏み跡は判然としていいる。右岸、左岸と石礫びで木立をつめる。谷が細まり一段になる。前面は建築八年ぐらゐの急斜面になっている。谷を渡り急斜面の真ん中に植樹作業道がジグザグについて

## 京都北山グループ

ている。これが衣懸坂へのルート。背丈ほどに伸びた樫とビシヤカキの渾木の斜面の道は崩壊したサレ場もあり要注意。ロープも張ってあるが「頼りにするな」とビッチを上げて20分程で急登を衣懸坂の鞍部乗り越しに登る。標高750mが、東面は180度の展望。目の前には黄・紅葉期に桑谷山の稜線が迫り、稜線はるか小野村割岳・天狗峰・三國岳と北山の稜線が連なる。衣懸坂を西に樹林の道を下れば京北町のソトバ峠越え鹿村八丁へのルートがある。小室川・栗谷林道に出る。

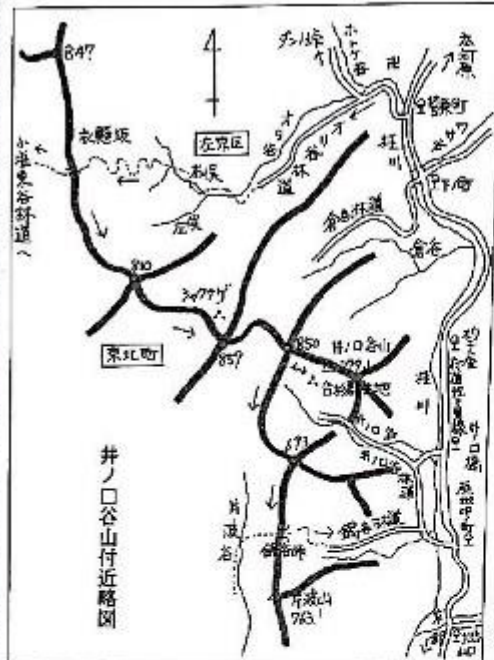
この稜線が市町境(京都市と京北町)尾根。井ノ口谷山へは左F810折へと抜

井ノ口谷山の杉にて



線を外さないよう踏み跡を辿りながら登り進む。京都市側の斜面は石垣花の大樹の群生。花時はさぞかし見事な色どりを築ませてくれるだろう。晩秋の今はクロモジの黄、ウルシの紅葉が散り落ちてくれる稜線歩きだ。この稜線付近に大杉並み、深見川の広域林道が通るとのこと。現在は測量用の黄色の杭やビニール番地札が区画道に付いているのが目障りになる。ピークのアップ

ダウンを五つ程でP859の広場に出る。青原橋から歩いてこの辺でちょうどお昼時になり、井ノ口場所には落ち葉絨毯の好適な場所。お昼弁当を済ませます。P859から二つ目のピークP850が鍋谷峠尾根へ分かれ、井ノ口谷山三角点へはP850から直進、倉谷と井ノ口谷の稜線の道道の踏み跡を辿り下ると道の横斜面に三角点標石が立つ。ここが井ノ口谷山△779・1。ピークでは無い。



井ノ口谷山付近略図

この右下、井ノ口谷側の斜面が台杉の群生地帯。推定樹齢50年以上、周囲18m、樹高約20mに達する巨木があり、周囲の台杉群はまるで雌文の森に迷い込んだ感が出て居る。同行の女性たちはメルヘン(お伽話)の森のよう。白濁と七人のコビトが、今でも現れそうな雰囲気だと伏伏台杉の群生を見ておっしゃる。  
杉には、オモチ(養日本)杉とウラ(裏日本)杉がある。藁野地帯に自生するウラ杉は枝が柔らかいのが特徴。雪をかかっても折れず地面を這って、新しい根を下ろし、母樹から子樹を派生させ、伏伏台杉として成長する。

北条田郡美山町、京北町から京都市左京区広河原、花背、久多一

帯は年間気温の平均が摂氏13度以下で雪が多く、このウラ杉の繁殖に適し、いくつかの台杉がガイド誌にも紹介されている。平成元年9月26日の読売新聞では、国際花と緑の博覧会記念「新きょうと名木十選」にこの井ノ口谷山の台杉が選定されたこと報道されている。京都新聞も平成元年11月8日に、ふるさと名木探訪 欄に花背の伏伏台杉を紹介するなど、井ノ口谷山の台杉群生地帯は有名になった。

井ノ口谷山は井ノ口橋際の古原さんの持ち山私有林で古原さんは「台杉は林業からするとまるで価値がありません。でも初めて見たとき、あまりの雄大さに圧倒されました。いつまで生き続けるかわかりませんが長く見守ってみたい」と話された。我々北山の自然を愛する山原は古原さんの言葉を大切に守り、この台杉群生地帯を俗化させないように努力することを山原にリクエストしていた。美山町では、台杉と称し、京大演習林の杉尾坂付近でも自生の巨木が多い。

以前まではヤブの苦草でもないが、P893から瀧木、笹が伸びる左の支尾根の工事道につられて入ってしまったよう、コンパスで南進を確認しながらすすむ暗い杉林の敷部谷峠へ出る。直進して登れば片波山、右は片波谷から京北町上畑田への分岐十字路で、我々は左原地中ノ町へ杉林下のトラバース道を下る。水音が聞こえパアッと明るくなって広場になる。ここが鍋谷峠の終点。両側の斜面は伐採直後で樹の若苗の緑色が鮮、褐色の山肌は複雑模様を描く。明るい林道歩き、20分程で原地中ノ町バス停に出て、今日の縦走山行を終える。

又、広域林道は森林整備調査・治山、森林事業・地域内集落の利便追求のため、水源かん養林事業などで必要工事であるが、反面自然破壊につながるものでないとするかとシレンマに陥る。  
京都市バスは午後5時29分まで無い。北の約子監バス停と南の大森山バス停に茶店もあり道をとりながらバスを待つのも、日の短い晩秋には味なもの。  
(平成8年11月6日歩く)

衣懸坂から鍋谷峠までの市町境界尾根はイヌブナ・ミズナラ・カエデ・カツラ・栗・リュウウブなどの広葉樹と赤松・榎・樺など大樹の混合林の尾根道で、昭文社の地図「京都北山」にも歩行赤線のコースが書かれていない。大布植・深見間の広域林道の計画図が二重線画で記してあるので参考によれば、現在地点が確認できる。  
この市町境界尾根線歩きはアバンチュールなペリエーションコース。  
2万5千の地図(先青・久多・上ノ町)を用意すれば一層楽しい山歩きができる。

△登りタイム(音原町9・50・オリ谷林道終点10・50・衣懸坂11・20・30(伏見食事合点) P810は11・40・P859は12・20・13・30・井ノ口谷山13・40・14・00・P859は14・20・P693は15・00・鍋谷峠15・30・原地中ノ町16・20  
△地形図「昭文社」48京都北山」  
2万5千の地図(先青・久多・上ノ町)2万5千の地図(先青・久多・上ノ町)には山名が記されていないが、京文社(京都府)三角点時標高欄一覧には「シシヤウシ」井ノ口谷山」と記されている。  
(昭文社) 出口 裏(2)

【この花・この葉】  
「フン」(Magnolia kobus DC.)  
モクレン科 (Magnoliaceae)  
冬枯れの中で、いち早く春の訪れを告げる花——辛夷。葉に先立って白い花を開く辛夷の蕾は、日当たりの良い南側がよく育つため、先づが北を向いて曲がります。  
「コフシ」とよく似た花に、同じモクレン科のタムシバがありますが、蕾の違いは蕾の片の厚さが、前者は花弁の厚みの2倍、後者は1.5倍以下という事です。  
早春、コフシ、タムシバの両花蕾蕾の蕾を採取し、風通しの良い所で陰干ししたものを生薬では「辛夷」といいます。(精油は4倍をのみ、ヒネーネ・シネオール・シトラール・オネゲール等から成る)。これは「神農本草経」の上品に収載された漢薬で、鼻疾患に対する効果に似せれば使われます。その子の如く辛夷の匂い(大葉の蕾は辛夷がなっていない)が、辛夷があります。生薬の粉末をそのまゝ、或いは煎じて、香煙・鼻炎・鼻づまり・頭痛等に用います。  
山野で、蕾のような形でし、毛が密生して光沢のあるコフシの蕾を見かけたら、ちょっとおぼしめてみて下さい。  
ほら、春の予感か……

エリア別  
徹底研究

# 近江側から登る鈴鹿の山々

— はじめに —

## 岩野 明

西暦673年、天武天皇がこの山を通過された際、可愛い子鹿が二頭出てきたので、首に鈴をお付けになっただのが「鈴鹿」の名のはじまりであると、打鹿尾の鈴鹿園定公園登山観光案内板に記載してある。

55年度、第20号からのエリア別徹底研究は「近江側から登る鈴鹿の山々」と題して順次紹介していきます。

北の登道山から南へ約20km、延々と連なる鈴鹿山系。昭文社エリアマップで県境尾根を辿って見ると、登道山そして最高峰の御池岳、第二位の雨乞岳も近江側にある。全体を見ても、広大な鈴鹿の山域は近江側に広がっているのがよくわかる。しかし主な山は「モンマウンテン」の宣伝もあってか、二重県側からの登山路が発達してい

て、関西からは近くて遠い山という感じが強い。これを機会に鈴鹿を身近な山として大いに楽しんでもらいたい。

主稜線から近江側に派生する多くの尾根ピークや谷は一部を除いて殆ど登山の対象としては何となく白の山域で、置き去りにされている。人間と自然が共存していた時代はどっくに跡が去り、約半世紀近くも全く人の手が入っていない。木々の自然に任せて育っている。樹林帯は自然淘汰で樹木が大きく育っている。

深い樹林の中には下草や灌木が生えているが、藪といえる程の所はほとんどない。熊笹や灌木帯は別としても、樹林帯は自由に歩き回ることが出来る。このような山域は鹿・カモシカ・猪・狸、動物達の棲息



池で、けもの道と古い道が縦横無尽に延びている。辿ると炭焼き窯の跡もある。人が入らなくなった山域は、藪が茂り近づくことができる。

ないと考えがちだが、麓の山よりむしろ歩きやすい。特に鈴鹿の樹林帯は湖北や北山と違い雪が少なく、樹木が真っ直ぐに育っている。このような山域を約10年間歩いているが、一般的な登山道以外に全般的に入っていないバリエーションルートはかなり発見した。これらのルートは古い道やけもの道で、はっきりした道ではない。しかし手に負えないような藪もない。大自然の懐に分け入り、深山の空気が静寂の中、自然の営みを肌で感じつつのんびりと進む。いろいろな動物達との出会いも多く、鈴鹿の自然の素晴らしさを心おきなく楽しむことができる。

エリア別  
徹底研究

# 近江側から登る鈴鹿の山々 ①

## 幻の塔・御金明神

水源寺の傍に八幡社に塔の金明神社が祀られている。その山頂、天狗の面の「御金明神」を知ったのは昭和11年の秋であった。佐目小谷からカクレグラに登る予定で水源寺の横を通りかかった折、地元の人が山仕事をしていたので、バイクを停め、そのルートについて尋ねたが、その後、獅子ヶ口山系の道にならば金明神の塔を聞いた。ぜひ行って見たいと言った。小石で道路に地図を書いて説明して下さった。



御金明神

だが、全然知らないルートなので良く分からなかった。山から下るともう暗くなり始めていたので、バイクで急いでいたら、バイクが私を追い越して前に止まった。朝出会った方で、すぐそこが家だから寄って行きませんか、と云って下さったので、その人河合氏の家まで引き返した。資料や写真・地図を見て説明を聞いた。私が谷尻谷流域は全然わからないと言った、紙に筆で詳しい地図を書いて下さった。

12月に入ってから途中で引き返すことを覚悟して出かけた。昔の参道を辿りながら、佐目小谷の様相から登り小峠で休んでいると、どこから来たのか犬がじゃれつくので鼻をやって追い返した。途中音があるのでも振り返ると犬がついてきている。ハチノス谷の登りで休んでいると横の藪を登って先に行ってしまった。追い返しても下ら

ないようだ。

天狗岩の下を登り稜線に出た。獅子ヶ口に登る際この稜線は何度も歩いている。北谷尻谷は深み込みも深く深い樹林に覆われていて、近寄りたいたい威圧感がある。しかし今日は違う、葉を落としたり谷は明るい秋の日光を受けて待っていた。知らない犬でも一踏だと心強い。北谷尻谷を下ると、犬も先に下って待っている。深く切れ込んだ谷には葉を葉が流れをせき止めていた。

稜線から50分で合流谷の出口に着いた。出口には小さな滝がかなり激しい。出合には小さな滝がかなり激しい。滝を歩いたというコリカキ場だ。その場で短い昼食、犬が尾を振って寄ってくる。オニキリを一個やることと云う間に食べてしまった。まだもの足りない御をやる。仕方なく非常食のクラッカーをやる。食後、コーヒーを飲んでみると、犬は諦めたのか谷を歩き回っていたが、いつの間にかいなくなってしまった。引き返そうと犬を呼んだが来ない。そのうらまをだるらと思っていたがなかなか来ない。途中で口笛を吹いて待ったが現れない。佐目小谷を下って河原を歩いていると、犬が追い越して行ったのははっとした。暗くなりだした谷を急いで下ると、広川

原で2人の御師に出会った。この奥で犬を見なかったかと尋ねられ、先程私を追い越して下って行ったと言くと、朝からこの谷に鎖に米袋が犬がいなくなりどうにもならん、帰るにも帰れんと言って登って行かれた。

次の年、雪解けを待って2回アタックしたが、天気が悪く途中で引き返した。

5月初め、7時前に佐目小谷に入り10時過ぎ谷尻谷の出合いに着いた。上流に進み左の支尾根をつめて稜線に出て御金明神を探したが見つからない。右上に次のピークが見えるので、探しながら稜線を進むと、左斜面に大きな岩や岩壁が続いている。岩壁の下に回り込んで探したがやはり見えない。尾根筋は複雑に変わり、何とか頂上に登って、その先を探したが、支尾根の分岐



まで引き返し、稜線を下った鞍部が古い峠のようだ。

悪い昼食をとりながら回りをよく見ると、やはり谷尻谷から乗り越えた峠で、蛇で切ったような切り株がある。食後、右斜面を下ると左支尾根の斜面に大杉の森があった。一気に下って森に入るとすごい岩塔がある。急な斜面には杉の巨木がうっそうと茂っている。倒れている杉もある。薄暗い森の中は雲霧が漂っているような気がする。しかし天狗の面はない。下へ回り込んで見上げると、岩塔の上には五葉松が茂っている。天狗の面はない。やはり違うのかと思ったが、岩壁の横の木が切られている。ひと回りしてなければ引き返すことにして藪を登り、途中で見上げるとあった、天狗の突き出た鼻が見えた。急いで登ると天狗の面の

左下に着いた。

そこは小さな土場になっていた。大きな杉が倒れかかり天狗の頭に乗っていた。杉は枯れずに竹々と茂っている。しかし重みで今にも崩れそうだった。台風が来た場合など心配だ。基部の手前が段になっていて鳥居が奉納してある。木に登って真横から顔を拝むと、口を少し開き東の方を覗んでいる。凄まじい迫力だ。自然の岩が積み重なってできた奇怪な岩塔はまさに天狗の顔だ。運氣が漂う静寂の中、一人で天狗の顔と対峙していると、背筋が寒くなってきた。

佐目小谷からのルートは、4〜5年前の大雨で崩れがいたる所で発生し、道も木の柄もほとんど消失して現在は通れない。久しぶりに紅葉尾から登ることになった。

紅葉尾の銚子ヶ口登山口に車を止め、7時30分出発。登りだすとすぐうっそうと茂る杉の森になった。小鳥の音が聞こえるだけの薄暗い静寂の道が続く。明るい切り開きに出るがすぐ又うっそうと森を穿たされた。長尾山(778m)の東斜面を南に向かってトラバースしながら登るルートは植林が終わり、杉や檜が大きく育っている。登るにつれ左側に展望が開けた。神崎川から845mまで一気に突き上げている不老

堂と、990mのピークから△898・7mの水木野と続く稜線が望めた。出発後約1時間10分ほどで、長尾山の南尾根に出た。右下から須谷川の流れる音がはいり上がってくる。尾根道の緩い下りを追ぎ登りつめると、道は尾根をはずれ、西廻り谷台に向かって延びてきた。真下に流れの音を聞きながら進むと、辺りは杉の植林に変わった。支谷を二回渡ると植林が終わり、落ちて着いた浮腫気の雑木林の中の急な登りに変わった。真上が東峰だ。池木に変わり雪原の尾根から右の急坂を登りつめると、展望が一気に開け支峰に着いた。

ひと休みして360度の展望を楽しむ。びわ湖と湖東平野が登壇の中ばんやりと広がっている。御池岳から続く鈴鹿の連山、落ち込んだハト峰の先に伊勢湾がみすましかに望めた。南に続く尾根を下ると雑木林に変わり、テーラの印を進ると鞍部に着いた。右の広い谷を下るとすぐヌク場があり、切れ込んだ谷に出た。黒い滑床が北谷尻谷に向かっている。滑床の緩い下りを辿ると花崗岩帯に変わり流が現れ、下りは急になった。テーラの目印は谷の左側の樹林の中を下っていた。池ると水を入るビニール袋を3つ程度の細さに切って木に結んで

ありよい目印になった。この印を進ると北谷尻谷に着いた。出合いの木に大きく銚子ヶ口ルートの標記があり、帰路の目印になる。米袋の印も北谷尻谷を下っている。以前私が付けた赤いテーラの印もあり送うこととはない。印を辿ると、右岸の広い樹林の中に大きな杉の切り株があった。その洞穴に大きなビニールシートが二枚畳んで置いてあり、アルミのパイプの入った袋もあった。非常の場合テントとして使用できようだ。右に左に谷を渡って下ると谷尻谷の出合いのコーカサス場に着いた。

お金の塔に向かってつけられている米袋の印にそって上谷尻谷を登ると、すぐ左に相れた小石だけの谷があり、この谷を登りつめると御金峰に着いた。神崎川に向かって目印があり下ると、道は左斜めに続きお金の塔の支尾根に着いた。回りの木にいろいろな印がある。以前登った時と印象が全然違う。三重県側の朝明溪谷がかなり登っているようだ。以前は下から回り込んで御金明神に登ったが、尾根から直下する道が出来ている。御金明神に下ってびっくり、塔の回りは切り開かれ、大杉の樹木も切り取られている。そして木にはいろいろな札がつけられている。以前「回佐目小谷から

は消えてしまった古い参道を辿り御金明神に参拝したが、登山道は全滅入っていない。塔の回りももううっそうと木が茂り神秘的で雲霧が感じられた。怖くなって急いで引き返したことを思うと嘘のようだ。

ゆっくり昼食。復路はお金峰から尾根を右に辿り塔の峰に登って見るが展望はない。大岩がかなりあり、引き返して下る。

銚子ヶ口の東峰は雪原のピークで広場もあり、鶴鹿連山と伊勢湾そして湖東平野とびわ湖、すばらしい展望が得られる。テントを張り一夜ゆっくりに過したい場所である。東峰をベースに1日目は銚子ヶ口山系を放棄、特に水舟ノ池と天狗岩、次の日にお金の塔に行くのも最高だ。

(平成6年5月10日歩く)

△コースタイム▽

- 銚子ヶ口登山口 (1時間10分) 長尾山南尾根 (1時間) 東峰 (25分) 北谷尻谷 (35分) 谷尻谷出合いコーカサス場 (30分) お金峰 (10分) 御金明神 (40分) 北谷尻谷 (1時間10分) 東峰 (1時間50分) 登山口

(地形図) 2万5千1:御在所山 昭文社 1:50御在所岳・鎌ヶ尾 (岩野一明)

近江側から登る鈴鹿の山々 ②

鈴鹿の展望台・銚子ヶ口山系

銚子ヶ口山系は標高1000mを超え、山域が広大な台地状に広がっている。ほぼ全域が葎の草原で、その中に灌木が適当にあつて、日本庭園の趣きがある。春の草原にはハルリンドウがいっせいに咲きたす。西斜面には鈴鹿で一番大きな山上池、約200坪の水舟ノ池があり、天狗岩を遠望できる。鈴鹿の展望台とも言える東峰を筆頭に銚子ヶ口・中峰を中心に西・南・北にほとんど同じ高さの峰を配して、それぞれに素晴らしい眺望が得られる。特に全然知られていない北峰は、植林されてしまつたが、当分は300度に近い大パノラマが楽しめる。明るくて開放感をよぶルートを、他の山とは一味違った良さを堪能できるだろう。この山域は私が一番親しんだ山で、以前は佐目小谷から整備された道道があり、広川原・鳥帽子岩・旭ヶ谷と続く菜

碧らしい溪谷を楽しみながら梓坂尻から水舟ノ池や天狗岩のルートをよく歩いた。45年前の大雨で崩壊していた所で発生し、道も木の樫も消失して現在は通れないのが残念だ。紅葉尾から登ることになる。421号線を進み杜葉尾のバイパスが下りになるとすぐ右に銚子ヶ口の登山口があり、道標が立っている。道標も広く脇に駐車できる。

登り始めるとすぐ杉の巨木の中の薄暗い静寂の道になり切り開きの明るい所もあるがしばらく続く。

東斜面を南に向かって登る道筋は、植林の道で杉、檜が大きく成長始めている。登るにつれ左側に展望が開ける。845坪の不老堂とその東に30坪の頂上、そして△898・7坪水木野と続く端正な山腰が眺められる。ひと汗かいた増長屋山の南足



根に寄る。正面、須谷川の登り・銚子ヶ口が望める。右側は須谷川を挟んで黒尾山へと続く。西峰より水舟ノ池・鐘向山

ながら尾根道を通り、登りきつた所が尾根道との分岐である。登山道は須谷川に沿って西斜面に続いているが、左の尾根道を進む。杉木立の中の生え込んだ踏み跡を辿り、登りつめる。檜を植林した尾根に変わり、展望が開ける。尾根には道が消えている所もあるが、大体踏み跡がある。登るにつれ後方の展望がますます開ける。急斜面の登りに変わり、植林から灌木に変わる。右に回り込みながら進むと灌木と草原の尾根に変わり、右の谷に下る登山道の分岐に寄る。真上が東峰だ。最後の急斜面を登ると一気に展望が開け、東峰に向かう。

遊べるものが何もなく大パノラマが展開する。北に湖東平野とびわ湖、日本コッパ、天狗堂そして御池岳から南に続く鈴鹿の山並み、坂道ヶ岳から落ち込んだハト峰の先

に伊勢湾、眺望をゆっくり楽しんだ後、右に続く植林を辿り灌木の中を登ると銚子ヶ口(1076・8)に着く。南に展望が開け、イブネの右肩に雨を近が望める。小林止して南峰に向かう。

灌木の中を鞍部下って、樹林の中を左に回り込んで登ると前方が開け、灌木と草原の台地に着く。ぐんと開けた草原の先に西峰が望めるが、左手の尾根道を通り荒地を過ぎて着くと灌木の中を進むと南峰に着く。正面はイブネ、眼下は深く落ち込んだ北谷尻谷。気持ちのいい草原が広がっている。ゆっくり楽しんで西峰に向かう。中峰まで引き返し、左に広がる草原を下ると、右に展望が開ける。眼下は深く落ち込んだ佐目小谷。正面にカクレテラが望める。緩い下りを辿ると灌木の尾根に変わり、一ツコブを越えると正面が西峰だ。草原の急斜面を

登り西峰に着く。

左斜面は草原が広がり、右は雑木林が続く。北東に展望が開け、銚子ヶ口山系が一望できる。ピークから灌木の中を北に進むと、正面に天狗岩が望める。緩い下りを向の端まで通ると、右下に水舟ノ池。その先は杉が大きく育っている。この池には強烈な思い出がある。約10年前佐目小谷から池邊を通り、初めて銚子ヶ口に登る途中、突然目の前にこの池が現れた。きれいに下刈りされた草原にはハルリンドウがびっしり咲いていて、その美しさに理然とした。池に下るルートは、南に下り鞍部から右に下る途中で左に進む。復路は中峰の手前で植林の横の神々分けをそのまま進み、左に曲がって北峰に向かう。左斜面は植林、右は白樺林が密く。一ツコブを越えた先が北峰だ。登りつめるとすぐ左にガンの岩場がある。岩場の端に下ると眼下に天狗岩が望める。急な下りになる手前で杉檜林下の道を通ると、前方が急に開け



銚子ヶ口付近略図

北峰だ。登りつめるとすぐ左にガンの岩場がある。岩場の端に下ると眼下に天狗岩が望める。急な下りになる手前で杉檜林下の道を通ると、前方が急に開け

北端の草原に着く。このあたり風が強いので植林の成育が悪く、素晴らしい眺望が得られる。西北東には鎌倉にも重なり合つて続く鈴鹿の山並み、眼下の佐目小谷が水原寺ダムへと流れている。その先に愛知川が巨大な蛇のように曲がりくねりながら湖東平野へ消えていく。足元には黒尾山へと延びる稜線、帰路は奥下の鞍部から須谷川に下ることになるが、この広い谷全体がクワングに覆われている。花の時期にぜひ登って見たいものだ。鞍部下って、右の広い谷には道はないが敷のない所を適当に下って須谷川を下降すると、右上に往路の登山道が現れる。

- ▲コースタイム
- ▲登山口(1時間10分) 黒尾山南尾根(1時間)
- ▲東峰(3分) 銚子ヶ口(25分) 南峰(25分) 西峰(25分) 北峰(30分) 登山道(1時間30分) 登山口
- ▲地形図 2万5千100地形所山・鐘ヶ岳
- ▲参考文献 1「御池岳・鐘ヶ岳」
- ▲交通 マイカー利用

(佐野明)



エリア別  
徹底研究

### 近江側から登る鈴鹿の山々 ③

## 不老堂から水木野

421号線八風街道は紅葉尾の神崎橋を渡ると茶屋川に沿って石橋峠へと向かうが、この道の右に全然知られていない山域がある。紅葉尾の東に登る峰で、銚子ヶ口に登る際、左に端正な鐘鐺の山腰が眺められる。

神崎川と茶屋川の出合いから一気に845分の不老堂まで立ち上がり、東に回を落として、又一気に930分まで突き上げていく。そして東にゆっくり回を落として△898・7分の水木野の山腰へと続く鐘鐺では珍しく屹立する鐘鐺で南と北は急角度に落ち込んでいる。見た目には険阻な感じがあるが、稜線を歩くとは自然林がどこまでも続き、静かで落ち着いた樹林の中の山歩きが楽しめる。

神崎橋を渡るとすぐ右側に広場があり駐車できる。山に入る道を探しながら歩いて

行くと、右側の杉林に向かって仙道があった。この道を登ると梢を越えればかなりの明い斜面に着いたが道は消えた。植えられた苗木は鹿に食い荒らされ、畚敷のようだ。切り開きの左側の急斜面を登ると尾根に出た。里に近い山にしては、杉と雑木の林はどの木も大きくゆったりと育っている。落ち葉の溜り場になっていた。泥田のような腐った土に踏み跡が浅い。すぐ左の斜面に根元から約1・5分が真っ白い異様な木がある。4本もある。近づいて見ると鹿が皮をかじってしまったのだ。横に張り出した太い根も真っ白だ。大雪の時期に木の皮で肌を剥いでいるようだ。

厚く積った落ち葉ではっきりしないが、尾根には古い道が続いている。雑木の中に赤松と樅の大木が増えてくると赤い杭が現れた杉が3本、異様な白さで立っていた。南側に大きな苗木の木があり、2分の高さのところから大きな枝をいっばい広げている。この木に登ると展望が一気に開けた。八風峠の三池山から釈迦ヶ岳、御在所と続く鈴鹿の主稜線、そして銚子ヶ口山系と続いていた。

930分まで突き上げていく鐘鐺。乾いた明るい自然林には黄色い小さな花が咲いている。マンサクの花だ。鈴鹿山系にもこれだけマンサクの花が咲く山があるとは驚きだ。南側が残雪のイブネ、御在所岳、銚子ヶ口山系の北斜面には、残雪の中に黒々とした杉の自然林が静やかだ。北側はやはり御池岳方面の展望がすばらしい。

腰を下ろしてゆっくり楽しんだ後、岩場を下って最後の登りにかかる。右や左のマンサクの花に眺まされ、急斜面を登りつめると石橋花が現れ、930分の山頂に着いた。

石橋花に囲まれた山頂にも、残雪の中マンサクが咲いていた。展望はない。東斜面にはまだかなりの残雪がある。立ち枯れし



不老堂・水木野付近略図

た杉が3本、異様な白さで立っていた。南側に大きな苗木の木があり、2分の高さのところから大きな枝をいっばい広げている。この木に登ると展望が一気に開けた。八風峠の三池山から釈迦ヶ岳、御在所と続く鈴鹿の主稜線、そして銚子ヶ口山系と続いていた。

マンサクの花の下でゆっくり昼食。日だまりの山頂、回りの雑木が風に吹かれて心地よい音をたてているだけの落ち着いた静かな山頂だ。石橋花の花期にぜひもう一度登って見たい。

三角点水木野に向かって下る。雪が緩み膝までもぐる。いったん下って、緩い登りから左に折れて下りにかかる。尾根は植林に変わり生え込んでいる。踏み分けを探して下ると広い緩やかな台地に出た。杉木立の中を進むと、右側の根元に三所岳があった。うっかりすると通り過ぎてしまいそう

だ。北斜向の杉木立の中に所谷に向かって下る道があった。この道を下り、右に回り込んで支尾根に出た。尾根の斜面は植林したばかりで眺望が良い。その時左直下で音がした。バサバサ、ガラー、ガラガラーと小石を落とす音が一瞬、跳んで下って斜めに登って、尾根を越えて不老堂の方



不老堂と930分

れる。等間隔で打ち込んでありよい目印になっていた。馬酔木の小枝を払いながら登ると左斜面に残雪が現れた。右手、樹林の間から銚子ヶ口山系と御在所岳が見え隠れする。登りつめて平坦な尾根を進むと不老堂の山頂に着いたが、雑木の中で展望は無い。しかし人懐けしない落ち着いた山頂だ。下り始めてすぐ左斜面に役所跡があり、北側の展望が開けた。

天狗草土でも言いにくくなるような富士山そっくりの天狗堂。その右奥にひとときわ高く聳える鈴ヶ岳と御池岳は衣に残雪の筋を配して巨大な酒壺体のように横たわっている。そして南に続く稜線の端に緑の電ヶ岳、その手前は送電線の鉄塔をのせた藤原岳から西に延びる低い山並みの端に岳が聳えていた。一つのコブを越えて下り、鞍部の岩の上に着くと又展望が開けた。正面はに消えた。

尾根の先端に腰を下ろし西北東に広がる鈴鹿の山並みをゆっくり楽しむ。眼下に荒谷が見えて、折り返しながら下ると、道は谷の右側に続いていた。支谷を2か所渡ると道は消えたが、大きな杉林はどこでも歩ける。そのうち道ははつきりしてきた。右に回り込んで下ると八風街道に出た。神崎橋に向かって歩いている途中中に「京ノ水」という名水がある。喉を潤し水筒に入れる。

尚、不老堂の北斜面に約30分の「若ノ池」という真っ白い花崗岩があり道路からも望める。登るとやせ尾根の西側は回り込めるが、東側は尾根の途中から垂直に突き上げている。塔の頭には灌木が茂っていた。

(平成6年1月3日歩く)

- △コースタイム▽
- 神崎橋(1時間30分) 不老堂(10分) 鞍部(20分) ビーク930分(20分) 水木野(1時間) 八風街道(1時間) 神崎橋
- △地形図▽昭文社「45御在所岳・鈴ヶ岳」
- △交通▽マイカー利用
- △地図明

# 黄和田から山ノ神峠・朝日山

天狗窟士



中部電力の送電線が藤原岳の北・願陀ヶ平から土倉尾根そして南に延びる後線を、ノタノ坂・ヒキノ・朝日山・山ノ神峠から黄和田の集落へと続いているが、この送電線の鉄塔下に整備された遊歩路が通っている。このルートは歩く人はあまりいないようだ。延々と続く広大な山域は里に近いため、近年植林がかなり進んではいるが、ゆつたりとした広がりをもつ稜線を歩いてみると、陸所で素晴らしい展望が得られる。そして朝日山周辺は自然林がどこまでも続く。君ヶ畑に下る道筋からは、西側をすくと落とした天狗窟士が忽然と現れて出迎えてくれる。起伏も少なく、いつでも気楽に歩ける約5時間のコースである。帰りは君ヶ畑発は時分が17時18分の町営バスを利用することになるが、黄和田発は時55分の君ヶ畑行きに乗れば逆のコースもとれる。

421号線は水原寺ダムを過ぎると愛知川の左岸を進み、中畑で右折して橋を渡り紅葉屋へ向かうが、バスは直進して行き、右折して黄和田に向かう。黄和田の集落を過ぎた十字路の右角にバス停がある。右下の河原に下る広い道があり、道路脇に駐車できた。

9時30分発。左正面の山の中腹に鉄塔があるが、その峰をストリートに後線を登ることになる。十字路を左折するとすぐT字路になり、それを左折して民家の集落を過ぎて緩い登りを進むと、右が杉の植林に変わり登りきった植林の角に、遊歩路に入る黄色の標示板が一枚立っていた。植林の橋が広い駐車場になっている。

右折して山に向かうとすぐ道は細くなり、両側には畑に杉が植林してある。林の入り口にホースで水を引いたタンクがあり、こ

こで水を補給して入ろう。うっそうと茂る大杉の林は次第に急な坂道になり、谷の右斜面へと道は続いた。森を抜けると、左上に鉄塔が見える。杉植林の中、急な坂道が続く。左の鉄塔に向かう道を見送ると折り返しの道に変わった。急な坂道が緩急まで続く。登りつめると、すぐ道が分かれ、左が遊歩路、右は岳に向かう。右に曲がり分る進むと、植林した山の中腹に巨大な老杉が一本立っている所で道は消えた。幹は枯れて白くなっているが、葉は青々と茂っている不思議な杉だ。引き返して北に向かう。樹林を抜けると北東に展望が開けた。後線の左は自然林、右斜面は松の植林に変わった。一つのコブに登ると360度近い展望が得られた。

キトラ山・東山・朝日山と続く稜線の奥に天狗窟が潜んでいる。あの数まで行くの



だ。鈴鹿の主稜線は龍池岳・藤原岳・獅子岳そして目の前に屹立する静ヶ岳。ここから見ると今まで見慣れていた静ヶ岳とは格段に風格が違う。緑の旗を頭にのせた静ヶ岳・岡には三池岳・釈迦ヶ岳・鏡ヶ岳・口山系と続き、その奥に御在所岳が顔を覗かせている。後方には日本コブの巨大な山塊が続いている。足元の広大な山域は植林して間がなく壮麗たるスペースの中に樹の植林がコントラストを見せている。緩い下りの途中、目の前を踏む所からバタバタバタと大きな音を立ててオスの山鹿が一羽飛び立ち、長い尾羽を引いて左の樹林の中に消えた。左に鉄塔が見れると道が分かれた。左は政所に下る道だ。右に進むときれいに刈り込まれた道がどこまでも続き、道の右左に

猪が頻り返した獣が次々と現れた。広い鞍部を通ると山腹の道に変わり、山ノ神峠に着いた。茶屋川に下る道は細木で見えない。かき分けて覗くと、深く切れ込んだ道が茶屋川に下っていた。昔は政所からこの峠を越えて茶屋川の古瀬谷を通り、石橋峠を越えて伊勢方面に進む道があったというが、現在は通る人もなくほとんど消えているようだ。一度は歩いて見たいルートだ。緩い登りを植林の隙間に出ると、うっそうと茂る自然林に変わった。そして道のすぐ右側にヌク樹があった。深い樹林の中を歩いてみると、右斜面でバサバサバサと落ち葉を蹴散らし、一頭の鹿が白い尻を見せて谷に跳び下って行った。

遊歩路は鉄塔に行く道が右側に次々と現れるが、ほとんどが行き止まりのようだ。製所製所に君ヶ畑方向への標示があった。緩い坂道を登りつめると朝日山(750m)山頂に着いたが、樹林に囲まれ展望はない。三ノ点の回りが小さな広場になっている。ひと休みしてから先に進むと、落ち着いた樹林の中に整備された道がどこまでも続いている。鉄線か、右斜面の急な道に変わり緩い下りになると右前方が急に開けた。正面は植林が目立つヒキノ、右には茶屋川を

# 稽古照今『記・紀』を歩く①

## 神武伝承地 菟田から磐余(1) (宇陀郡から桜井・橿原市)

近鉄橿原駅1分(分岐バス停)①、桜井神社(2分)、宇賀神社(3分)、百瀬山(4分) ②、宇賀神社(5分)、伊賀郡(6分) ③、伊賀郡(7分)、伊賀郡(8分) ④、伊賀郡(9分) ⑤、伊賀郡(10分) ⑥、伊賀郡(11分) ⑦、伊賀郡(12分) ⑧、伊賀郡(13分) ⑨、伊賀郡(14分) ⑩、伊賀郡(15分) ⑪、伊賀郡(16分) ⑫、伊賀郡(17分) ⑬、伊賀郡(18分) ⑭、伊賀郡(19分) ⑮、伊賀郡(20分) ⑯、伊賀郡(21分) ⑰、伊賀郡(22分) ⑱、伊賀郡(23分) ⑲、伊賀郡(24分) ⑳、伊賀郡(25分) ㉑、伊賀郡(26分) ㉒、伊賀郡(27分) ㉓、伊賀郡(28分) ㉔、伊賀郡(29分) ㉕、伊賀郡(30分) ㉖、伊賀郡(31分) ㉗、伊賀郡(32分) ㉘、伊賀郡(33分) ㉙、伊賀郡(34分) ㉚、伊賀郡(35分) ㉛、伊賀郡(36分) ㉜、伊賀郡(37分) ㉝、伊賀郡(38分) ㉞、伊賀郡(39分) ㉟、伊賀郡(40分) ㊱、伊賀郡(41分) ㊲、伊賀郡(42分) ㊳、伊賀郡(43分) ㊴、伊賀郡(44分) ㊵、伊賀郡(45分) ㊶、伊賀郡(46分) ㊷、伊賀郡(47分) ㊸、伊賀郡(48分) ㊹、伊賀郡(49分) ㊺、伊賀郡(50分)

「十二月庚戌朔乙卯、遷居藤原宮都」、持統天皇の七年(694)十二月六日の遷都以来三百年、日本書紀は皇孫の磐余(文武天皇)に譲位して終結し、古事記は推古天皇の三六年(698)三月、天皇崩御の簡明な記載で終わる。

藤原京遷都十二年祭が一年遅れで大和国中で開催されるのを機会に、「記・紀」記載の故地を探索し、古を稽古今に照らすのも、心身の健康保持に繋がると思う。

古事記中巻は神武天皇から神武天皇記、日本書紀の巻三は神日本磐余彦(神武)天皇紀を記載している。明治二一年に橿原宮跡を治定し橿原神宮が造営され、同二三年に官幣大社として鎮祭が行なわれる。昭和の十三年から十五年は神武紀元二千六百年記念事業が展開され、橿原神宮の拡張と

## 中村敏文

神武聖跡の拡張・整備と顕彰が行なわれる。大東洋戦争後の民主主義の波は天皇制批判を「記紀」に向け、国家主義・軍国主義の排斥は神武遺跡を忘却へと誘導する。

戦後は記紀神話にとっかわった考古学が古代史ブームを巻き起こし、価値のない史書として「記紀」の抹殺を計っても、不透明な古代への郷愁は多くの人々の心の中に「記紀」を残している。

家庭や職場の日常から四季の変化に恵まれた郊外へでて、心身の健康の保持につながるハイキングに、医行きと福を持たせる為にも「記紀」を生かしてもよいと思う。神武東征到達地 菟田の穿(穴)八字院(神日本磐余彦が熊野から八咫鳥の先導で山野を踏み穿ち、菟田の下(穴)(穿也)に入ると兄弟・弟猪を石罫する。弟猪は帰順

桜井神社のハツ房杉



したが兄猪は道正命に追い込まれてからの落し穴で庄死する。その地を菟田の血原という。」

橿原駅からバスは30分で宇陀郡菟田町の桜井神社前バス停に着く。宇太町と合併前の宇賀志村は神武天皇の大和国中への第一歩の地で、「書紀」の穿也と「古事記」の八字院の穿は宇賀志村といわれる。

① 桜井神社(菟田野町佐倉) 旧村社 桜井神社前バス停から西へ里道を10分も行くと山裾に桜井神社が鎮座する。木花咲那姫を祭る式内社比定の古社で以前は天皇宮とも称し、境内に八坂・愛宕・十二社・秋葉神社と非財天がある。

社の境内は菟田の高城の伝承地で磐余彦命が駐屯したとき、四方に定めた神籬の一つといわれる。橿原町にも高城山はあるが高城は高地にある棚で踏った狩場だろう。社名磐余の初見は江戸末期で室町末期の

天王寺権社一枚、十二所権現の権社一枚が残るが、天王寺が桜井・八坂神社の何れの前身かは不明で、橿原町笠間にも桜井神社が鎮座している。

② 宇賀神社(宇賀志・宇賀) 旧村社 桜井神社からバス停へ戻り東へ分岐する町道を上り、小高い峠を下りると約30分でエナク川と宇賀志川の合流地へでる。菟田の穿(穴)伝承地といわれ宇賀志の地名

起原の地で、宇賀志神社を祭祀したという宇賀神社がある。昭和三十年に春日遊の社殿を修理して石下垣で囲い、新築所・氏子参集所を新築し石段を建てている。鳥居の前の土壇や石造り水鉢の位置が旧本殿跡で、享保二十年(1735)八月に再修したと棟札が残っている。

## 菟田から磐余付近路図



祭神が弟猪とも、兄猪ともいいうが社地は兄猪の大殿の地で、菟田の血原にちなんで近くに血原橋が架かっている。室生村上田口の伊勢太街道と室生寺東参詣道の交差点を血原というが、この社地も兄猪の最後を

遂げた血原の伝承地の一つで、室生村黒岩の国見山麓の宮城は、神武天皇の一時滞在した宮の伝承地といっている。

③ 青蓮寺(宇賀志・白旗山) 菟田野町の青蓮寺は中得姫ゆかりの青蓮寺と、大和の四水分水の一つ宇太水分神社である。宇賀神社から宇賀志川沿いに葛家への旧道を2分、5005字の目張山中腹の閑静な丘陵地にある浄土宗の尼寺、目張山青蓮寺が隠れた人気を集めている。中将姫19歳の姿を現した法如座像を本尊に祭り、四柱造営尊きの山の尼寺にふさわしい本堂と阿弥陀堂・鐘楼がある。

奈良朝の昔、右大臣藤原豊成の娘、中将姫は継母にうとまれ日張山に捨てられた。松井加藤太に救われ成長した姫が菟田野に狩りに来た豊成と再会する中将姫物語は、当麻呂茶屋や「元皇親書」「世阿弥の謡曲」「雲香山」に詳しい。青蓮寺は中将姫の自給を古文書「日張山青蓮寺縁起」などで伝えるが、寺院そのものの自給は不詳で、本堂は天明四年(1748)に消失して再建、文化十二年(1815)に土地陥没で崩壊し弘化四年(1841)に再建したとされている。

本堂に地蔵座像と尼僧像四体のほかに、



日張山青蓮寺本堂

松井「龍神太  
大妻像と三  
体の夫妻像  
がある。  
阿闍梨堂  
の近くに松  
井夫妻を供  
養した石塔

一基、日張山入り口に享和二年(1802)

路の仏足石が残されている。

④ 宇太水分神社(古市町・宇野野)

青蓮寺から水分神社へは宇野野神社へ戻り  
さらに1.5kmで宇野野川下へである。青蓮寺か  
ら3kmの宇野野小学校近くの国道166号  
線との分岐点に、昭和二十一年創立の「ひば  
り山参道」の石碑がある。また、健甕者は  
青蓮寺から北へ山道をより後谷へ下り、八  
坂神社南から松井の茨田野・御杖線へ直接  
向かって1時間余りで踏破できる。

松井橋から約1.5kmの芳野川東側の平  
地に日張山の宇太水分神社が鎮座する。一  
間社の四木入春日造の本殿が三棟並ぶ立つ。  
鎌倉末康建立の二戸社造で、明治四四年に特  
別保護建築物に指定され、昭和十九年には  
国宝に指定された貴重な神社建築である。  
右からの第一殿の棟木に「元応式幸上棟」

の1800年の藤村が確認され、同形同大  
の三殿の細部に鎌倉時代の特徴が残る。祭  
神は志保彦比古・太水分神・国六分知の三  
神で、延喜式には大社とされ貞觀元年  
(859)の神位は正五位下である。

本殿右方の春日神社は室町中期の春日造  
で大徳院願命を祭り、その右の市杵島比古  
命を祭る洗心寺も室町末期の建立  
で、いずれも重要文化財に指定されている。

⑤ 伊那佐山(橋原町山形) 637坪

「龍神」伊那佐山の山の木の間でも  
行きまもらひ頼へは、我はや頼め、母つ  
鳥、頼頼が頼、今助けに来ぬ」古事記の  
久米夜にみえる伊那佐山へは山道の登山口  
からのぼる。宇太水分神社から芳野川の東  
岸沿いに道を通って沢に入り、大川を越  
て登山口までは約3kmの町道を歩く。

山道の登山口には「大明神道 左十五丁  
慶応二年」と幕末の道標が立っている。山  
路の氏神への参道は明石が立られ、十四  
丁の町石を過ぎると高望が開け、音羽山・  
経ヶ原山・熊ヶ岳・富門岳が見える。  
山頂の御前神社社まで約30分の登りで  
近世でに貫船神社と称し高麗神を山籠の対  
で共祭っていた。大正初期には大・大員・  
石山・山路の六社神社、二宮寺の三宮神社

社、母里の森神社を合祀したが、戦後は各々  
の大字へ戻したので現在は山路の大字で祭  
祀している。

延喜式の「都賀那木神社」に比定してい  
るが、春日造の本殿と無人の社務所だけで  
寂しい。ツガナキの神は日本書紀の心神紀  
に見える都賀使主、また古事記の百濟軍が  
新羅との戦いで使用した桐り神のツガナキ  
とする説があるが調査しない。

伊那佐山山頂から北へ井足川を経て橋原  
高橋真への駆走は3時間も要するが、八咫  
鳥神社へ参詣するには石田が高田垣内へ下  
る登山路がある。今回は急坂もあるが石田  
の六社神社へ30分足らずである。

⑥ 八咫鳥神社(橋原町高麗) 旧日張山

石田から果合をへて芳野川を渡り高麗パ  
ス峠へは約2km、小丘陵の麓に御前神社を  
祭祀する八咫鳥神社が鎮座する。文政年間  
に復興されて以来荒れていた社殿は昭和十  
一年に相武天皇を大和へ先導した功績で皇  
社に昇格し、大修理と境内地の拡張整備が  
なされ、昭和五二年の大修造で社殿が整い  
現在の立派な神社になった。

「龍日本紀」の慶應二年(705)後に  
「八咫鳥の社を大徳宇太ノ郷に置きて祭り  
しむ」とあるように奈良朝以前の創始と推

備考 日本書紀 年表

天皇名	和年号	干支	月・日	西暦	日本書紀記載事項
即位	神武前7	甲寅	10・5	前667	舟軍を率いて東征出発
前紀	3	戊午	3・10	663	河内國の葦原邑につく 孔倉浦坂で万葉命(磐) 皇國の名草邑につく
3	戊午	6・23			熊野の磐邑につく、熊野津につく
3	戊午	9・5			八咫鳥の先導で死田(宇野)にはいる
3	戊午	11・			弟(磐)皇命が長尾彦を殺し備前
3	戊午	8・12			熊野の地に宮殿を造りはじめる
3	戊午	12・			五十鈴宮を正祀とする
3	己未	9・9			御前宮に御位し正祀を皇位とする
1	1	1	24	661	功賀を行ない國造・県主を定める
2	1	2	2	660	高麗を島原山に建てて祖を祭る
4	1	4	23	659	高麗を島原山に建てて祖を祭る
2	1	2	23	657	高麗を島原山に建てて祖を祭る
1	1	1	1	656	高麗を島原山に建てて祖を祭る
1	1	1	1	655	高麗を島原山に建てて祖を祭る
2	1	2	23	654	高麗を島原山に建てて祖を祭る
4	1	4	23	653	高麗を島原山に建てて祖を祭る
32	1	32	23	652	高麗を島原山に建てて祖を祭る
76	1	76	23	651	高麗を島原山に建てて祖を祭る
77	1	77	23	650	高麗を島原山に建てて祖を祭る
77	1	77	23	649	高麗を島原山に建てて祖を祭る

書紀の「西四年春正月高麗使の使來朝、古事記の「西四年春正月高麗使の使來朝」といわれる。改元は西暦に照らし合わせると西暦「西四年」(西暦650年)とする。推古天皇九年(661)は推古天皇元年(西暦661)と推定されるように西暦へ引換は比較は困難である。

定される。鎌倉時代の古文書から神宮寺、  
極楽寺の存在が推察されるが、江戸初期の  
『和州關西諸考』には「八咫鳥神社近田の  
町より一里ばかり、谷に隠家村といふ。一  
むかしにもなりけん、柱くづれ果て塵埃れ  
り」と書記ありて流すとれる。  
『新撰姓氏録』(石京神別下朝臣主の条に  
「神津の孫、神津皇命が大鳥と化して  
先導す。神武天皇その功績を待て厚く褒賞  
し、八咫鳥の号此より始まる也」とある。  
八咫鳥は神武天皇の大和進軍を先導した  
神津皇命の同一視されたり、熊野で横刀  
を斬じ大和進軍に功績を残した高倉と混  
同されて祭祀され、八咫鳥ゆかりの土地や  
社が方々に散在している。  
1248年の高麗山頂の高麗神社、大字  
院町守道の真倉山頂の高麗神社、橋原町福  
地の坂木神社(旧地は福地岳頂上)は高倉  
下命を祭祀する。式内の高麗神社二座の祭  
神は神津皇命・神津伊弉比古命とさ  
れ式内の比定も神津皇命を祀んでい  
る。大字院・吉野町境の鳥の鳴屋山、橋原町  
と桜井市の鳥見山など、八咫鳥や金色の鳥  
ゆかりの山へは登山にひと苦勞する。  
八咫鳥神社から橋原駅まで歩くとき小1時  
間、高麗バス停からバスを利用してもよい。

元山上口から高安の里へ

松永恵一

東風水を解く  
華やかに、嫩かに、初春を祝う。  
旧暦ではおおよそ立春が元日に重なる。

春たちける日よめる

袖ひきて、むすびし水の、こほれるを  
春立つけふの、風やとくらむ

『古今和歌集』巻一、春上あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

暑い夏の日が、袖もぬれるようにして手にすくった水が、冬の寒さに凍っているのを、立春の今日の風が、ふたたびとくして

中国に「社記」という本があり、一月合」といふ篇の中に、「東風水ヲ解ク」という一節がある。当時は中国の暦の知識を受け入れ、漢風しながら日本ふうにつくり上げていた時、世之も新しい知識を喜び迎

える気持ちで、中国の言葉をわざわざまえて歌をつくった。

東から吹いてくる春の風がとき放つてくれるものは、冬の間に凍りついていた氷だけでなく、その中にとじこめられていた去年の夏の行業の日々の思い出。水辺で楽しく遊んだ記憶が呼び戻され、躍動する春の喜びがやって来る。

石はしる、飛水の上の、さわりびの

萌え出づる春に、なりにけるかも

『万葉集』第八、一四一八、志賀屋

春になり冬の閑寂だった流れが流のよりに岩の上を激しく走り始めると、流の傍にわらびが芽を出る春になったことだなあ。春が来たという喜びとともに、作者自身の喜びを吐露している。

高安の女

在原兼平の歌を中核とした『伊勢物語』の「筒井筒の恋」に高安の女が登場する。

幼なじみの男と女が互いに慕い合い、いっしょに暮らすようになったが、幾年か経って男は河内の高安に住む別の女のもとに通いはじめた。幼なじみの妻は嫉妬もせず、憎いと思っ

ているようすもなく男を送り出すので、男は自分の心変わり

を頼にあげて女を疑い、ある夜、河内へ行ったふりを

して庭にかくれていると、女はきれいに化粧

をしてももの思いにふけて、

風が吹くと沖の白波が立つ、その名にか

ようさびしい菟田の山を、夜中にあの人が

ひとりり越えてゆくのだろうか。

と、男の身を案じる歌をくちすさんだ。男

はたまらなくいとと思っ、以後高安

へ行くのをやめた。

たまたま男が高安に来てみると、通いは

じめた当初は奥ゆかしく性っていたが、い

まは氣をゆるして、自分で杓子をとって飯

を焼いているのを見て、いやげがさして行

かなくなりました。高安の女は、大和

の方を見やうて

あなたの住むあたりを見ながら通

ります。東よ、目じるしの牛駒山を隔

て

ま

兼平朝臣河内通ひ (河内名所図会)



修験道

元山上光寺は修験道の聖地。わが国では古来、里近くのうっそうと茂った兵、美しい形の山岳、噴煙を吹きあげる火山などの山岳が聖地として崇められてきた。修験道は、こうした山岳への信仰と神道や山岳信仰、道教、陰陽道などの外来の宗教が融合して、わが國独自の宗教として誕生した。奈良時代になると、人ひとが聖地として

さないでおくれ、たとえ雨は降っても、と詠んでながめていた。やうと「行くこ」といって来たので、ようこんで待っていたが、何事もなしく過ぎってしまったので、

あなたが来るとおっしゃった夜の夜も、むなしく過ぎてしまいましたが、もうあてにはしないもので、やはり恋しく思いな

がら通っています。

と詠みおくれたが、男はもう通って来なく

なりました。

神立茶屋に兼平伝説が残る。十三柱を

越えて玉相神社に参詣した時、福屋という

茶屋の娘梅野を見初め、通ってくるようにな

った。いつもさまよって近くの松の木から

笛を吹いて、合図をしてやって来ていたが、

ある日笛の合図をせずに来て、あいていた

東窓からのぞき見ると、梅野が手すから飯

をよそって食べていた。急に驚きお

おと越えより笛吹山へ逃げ、池のほとりの

松の木に登った。梅野にあとを追いかけた。

水にうつっている恋しい人の姿を見て、兼

平これにおはずと悪い、池に飛び込み死ん

でしました。それ以来、この水を別れの水

と三言い伝え、嫁入りの時は他の道より行

き、兼平の現した一面切の笛は玉相神社に残

る。

ま

ま

畏れ敬って、近づくことすらはばかって、いた山岳の絶壁を険しい岩場をよじ登り、峰から峰へと駆けめぐると、求道者があらわれた。彼らは山岳に籠もって修行・苦行を重ねることで、己の煩惱を払い、他人の罪や穢れをも引き受けて懺悔滅罪を祈った。修験道は、苦行の山岳修行によって、人間の体力の限界に挑戦し、その荒々しい修行の中で神仏と一体となってこそ、奥義がまわめられるとした。

修験道の本尊として崇拜される、狂り狂った忿怒の形相の金剛様・権現や燃えるような火柱に包まれた力強くエメルキンシュな不動明王の姿は、悪魔を鎮伏する威力に満ちあふれ、山中の修行で体得する霊動力のシンボルであった。

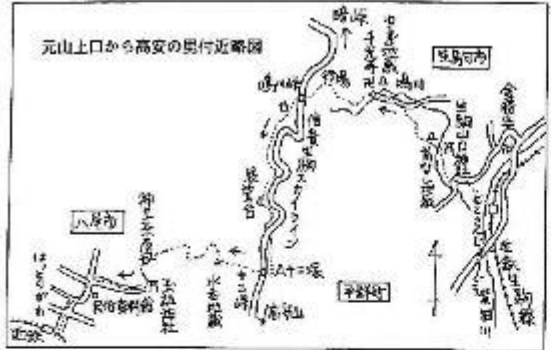
山中で修行した修験者の祈禱は霊験が著しいと信じられるようになり、王朝人や武士たちに湧りついた物怪・悪霊が加持祈禱で朝伏された。

修験者は山岳に参詣して修行したことから山岳とも呼ばれた。人びとの信仰を集めた修験者は、一般庶民の宗教生活の中に深く浸透していった。ある時は、祈禱師・占師、またある時は医者、ありとあらゆる希求にこたえて、修験者は修験者を行った。



十三峠 (河内名所区画)

**コース概観**  
 今回のコースは、大和と河内を結ぶ峠越えの古道。河内万仙群・千光寺から行場を通りながら鴨川畔へ。鴨川畔からは伊弉生駒姫走路をたどる。大和・河内の歴史をたどり来し、【伊弉物色】で有名な在原兼平が通ったという伝説を持つ十三峠から萬安の里へ下る。ファミリーハイキングとしておすすめのコースである。



五條奈良線の生駒駅を生駒駅に乗り換え元山山口駅で下車。車窓から見えていた「水子供養の寺」金勝寺へ向かう。  
 湯谷をなす平野川に一本の組が渡されている。助産婦と呼ばれ、雅なものを村内に入れないための道切か。寺伝によれば、天平の昔、行基菩薩が春日明神の夢のお告げによりこの地に來り、常神を祀り、密生していた森の靈木を一刀二断し、本尊の薬師如来を彫刻し、精舎を建立され、藤原山金勝寺と名付けられたという。  
 山門をくぐり、石段を登ると一般に薬師堂として知られる本堂がある。本尊の薬師如来座像は清大造、漆箔の等身大座像で平安時代後期のもの。左側の片杖花崗岩の首肌に刻まれた小ぶりの圓澤仏は室町時代の製作。線彫り不動明王をはじめ十四体の仏像が刻まれている。樹木に囲まれた境内では四季折々の嵐が楽しめる。滑々しい空気を深く吸い込んで、来た道を戻る。  
 駅の北側の踏切まで戻り、橋頭橋を渡り平野北幼稚園の裏を通り、なだらかな坂道を上っていく。右手に鎌倉式の古社、生駒山口神社。祭神は素戔嗚尊・櫛田姫命。神前祭のたもとの首なしのお地蔵さんになんとかく心ひかれろ。  
 谷とよく舗された道に下る。左へ入ると、て行く上流川。ガードをくぐる。直進すると藤原山。右にとると峠。左にとると明のい林の中を進む。やがて、屋敷台。藤原を築きながらひと休み。  
 コンクリートの緩やかな階段を下り、右の林の中に入る。右に丁字が池を見送り信員生約スカイラインをまたぐ歩道橋を渡る。さらに南に進むと十三塚。王家と称される大きな塚を中央に、その周囲に六つの塚が並ぶ。國の歴史を彩る文化財に指定されている。ここは地守の伝説が残る十三塚。大坂五三と大和能田方面とを結ぶ重要な街道であった。直進すれば萬安山から信貴山方面へ。左折すれば福原から平群駅へ。  
 ガードをくぐって右に下ると水子供養。大阪平野一望の高台にあり祭の名所として知られる。こころんと湧き出る清水は、弘法大師が十三峠を歩き交う旅人のために加持祈して得たという。七由がりの急坂を下ると湯谷の残る神立茶屋辻。史跡の道の道標に併い左の細い道に入ると玉相神社。祭神は稻明玉命。本殿の多彩色の装飾が美しい。湯谷の湯と伝える湯長石の石灯籠が残り、大阪府指定天然記念物のくすの木の木の大樹が茂る。

道標に気をつけながら石垣の家に沿って上る。右の五穀畑に住す群、正面に生駒山のテレビ塔を見る。杉の木の間にお地蔵さん、南無阿彌陀仏の板碑、阿彌陀仏、五輪塔がたまたま。ここから山道になる。しばらく行くと頭上かなたにコンクリートの橋を見る。権五郎の古い橋木が散置したすと中川清源談話。滝は15段の大滝。ここは湯谷は修験道の行場。屋間だというのに不気味なほど薄暗い。しかもビシッと肌を刺すような空気にかかっている。岩壁の八尺地蔵は鎌倉時代の傑作。五智如来、日吹菩薩、はろみ地蔵、ほら吹き地蔵などの磨崖仏が出現する。磨崖仏がたまたま。病がゆるぐ(病癒聖薬)という信仰を集める。2段ほどの流石仏で「弘治四年(1554)」の銘がある。同じ境内の土土仏殿は「天文二十年(1551)」の銘がある。  
 千光寺までの道は、古くは日本の僧徒が修る。下駄の音を聞きしやかに響かせながら降りて来る。伊弉物の女陰と出会えような刻を待たせられる。  
 山門をくぐる。石段の左右には修行者の像が無数に並ぶ。導かれるように一気に乗る。行者が吉野の山上で「天峰山」を築く前にこの地で修行したので、元山とい

急な坂に草木の志士神社、新山、白の裏山でこの名入である。たごえられる本園探訪記が現る。八尾市立歴史民俗資料館の前を通り、鴨川川向かう。  
 歴史に名を残す男と女の物語の舞台をたどってきたが、この道にはむしろ名も無き庶民の、恋のよるこびや基しみが湧き溢れているように思える。その人たちの熱い涙や吐息が陽炎のようにたちのぼっていた。  
**《コースタイム》**  
 近鉄難波駅(生駒駅)のりかえ約40分・元山山口駅(10分)・金勝寺(25分)・生駒山口神社(30分)・湯谷万仙群(10分)・千光寺(1時間)・鴨川峠(30分)・屋敷台(20分)・十三塚(15分)・水子供養(40分)・玉相神社(40分)・近鉄服部川駅(山本駅)のりかえ20分・近鉄上本町駅  
**《地形図》** 2万5千1:1信貴山  
**《費用》**  
 近鉄難波駅・元山山口駅 430円  
 服部川駅・近鉄上本町駅 250円  
**《問い合わせ》**  
 千光寺 074564(5) 06552  
 八尾市立歴史民俗資料館 0729(4) 3601

### 2等三角点のある山

## 弥十郎ヶ岳と美女山

初級コース(★)  
山形 歳之

#### 弥十郎ヶ岳

電坊温泉の奥にある弥十郎ヶ岳(715.1m)は、昭文社の「山と高原地図」では北嶺の山々に入っている。交通も以前は阪急バスが川西池田駅から温泉まで走っていた。大阪に住む私達は能勢の奥山くらいに思っていたが、地図をよく見ると丹波の篠山町にあり、丹波の山になる。以前から弥十郎という人の山名が気になっていた。何とはなしに北嶺の山なら大阪から簡単に登れて、丹波の山と深く奥深い山のように感じていた。近年までは藪山として知られていた山であるが、今では良い道が整備されて簡単に登れるようになった。そのわりに交通の便はあまり良くなかったとはい



ころ登口のみで、日曜日は午後の便が無く小柄か杉三新田まで歩くことになる。  
△コースタイム▽

後川上バス停(5分) 竹谷林道分岐(20分)

竹谷林道登山口(1時間) 弥十郎ヶ岳

△地形図▽2万5千円縮尺 5万1000部

△問い合わせ▽神姫バス三田営業所

079556(3) 4700

#### 美女山

なかなか良い名前だ。山に登れば美女に会えるかも知れない。丹波町にあるこの山の名の起りは「京都ふるさと登山」によると、「遠望が美女の眉のような美しい曲線を描いていることから名づけられたらしい」とある。なるほど山麓の寺谷から見た山容はなだらかな曲線を描いている。このような山は幾つでもあるように思うが、園部駅からバスで電坊温泉下車。琴滝の足

えない。

JR三田駅から毎時行きの神姫バスで、後川上で降り、北に向かって後山に通じる中道を歩く。500m程で右に林道が分岐するが、ここが竹谷コースの入り口で、山の案内板が立っている。沢沿いの林道を約1.2kmと行く。地図のヘアピンカーブの所に山頂への道標がある。車ならここまで入れる。駐車場はないが道端に2.5台は止められる。

ここから左の小沢沿いに入る。小さなテメットの流を二つ程過ぎてひと登りで鞍の端に登りつく。6.6m高のコンターの所らしい。少し下って鞍をたどると、やせた岩場があり展望が開ける。ひと休みするにはちょうど良い。南にペラボラアンテナの大野山が良く見えるが、その後方は山又山の重なりで遠望はまかない。やがて道標が現れて電坊温泉からの登山道が右下より合する。さらに鞍を通ると少し開けた10坪程の広場に待っている。山名表示板が立ち、あつげなく頂上に出ている。

周囲の津木で展望は余りなく、北側の一本の木の高から丹波の三疊、小金ヶ嶽の山並みが望まれた。  
長い間名前に引かれて気になっていた山

物は後にして、東へ延びる車道を寺谷に向かかって歩く。寺谷で車道の北に入り、一番奥の民家の横から裏側に出ると墓地へ行く道がある。その道を越えて林に入るのだが、入り口に猪よけの電線や鹿よけのネットが張られているので、注意して進む。道は林の中をゆっくりと登って行く。余り歩かれないなく着れている。やがて道が右の屋根へと回り込むと、小さい神社が現れる。大川大明神というらしい。道はここまでで、この先はただ林の中の歩き易い所を選んで上へ上へと登っていく。やがて鞍場に出ると跡を跡が現れ、右に上ると、林の中の30坪程の切り開きの草地にボールの立つ三角点(482.2m)がある。

展望は無く、測量用の切り開きからわずかに山影が見えるだけ。周囲は赤松混じりの雑木林で全然マツタケ山である。どこを見ても期待した美女の姿はなかった。



美女山山村近略図

#### 弥十郎ヶ岳山頂



だが、一時間程のあつげない登りで、山らしくない山頂であった。  
下山は、北に向かうと篠山の細市に下れるし、途中から西に別れて後川口のバス道にも下れる。しかしいずれにしてもバスの便は良くなり、篠山回りで大阪に戻ることもなる。  
また南に電坊温泉に向かって下山すると三田行きのバス便があるが、何故か今のと

登る時は上に向かえばよいが、下山時は全く白煙が無い。低い山なので崖にこれほど下に下れるが、目印としては登り口とした神社にも下れない。山頂を西に上ると「大明寺」と書かれた案内板が出てきた。北を歩いているので、南に野にあるお寺のことらしい。

鞍場をさらに西になるべく傾斜の緩い所を越えて行くと、左に下る道が出てきた。白いテープが張られていてマツタケ山の境を示している。テープは道沿いに延びていてどんどんと下っていく。やがて鹿よけのネットを潜ると、寺谷より一つ西の市森の消防詰所の裏に出た。寺谷から登るより市森からの方が道がハッキリしているようだ。市森からなら消防詰所の裏の間に駐車のスペースもある。

時間があれば身流を見に行くともいだろう。流の壁は素晴らしいが、滝の水量が少なくて見劣りする。

△コースタイム▽

市森又は寺谷(1時間) 美女山

△地形図▽2万5千円縮尺 5万1000部

### 新春登山

しかくらやま

## 鹿倉山

初級コース(★)

内田 嘉弘

園道り付線が、笠原と分かれて奥穂町の町界を越え、和町の裏原。正面に、右肩にコブをもつ鹿倉山が見えてきた。

右肩コブから急角度に落ち、なだらかな山頂付近から左へ延びた稜線がまた急角度に落ちている。登行意欲をそそられる姿をしている。丹波の名山と言ってもよい立派な山だ。

裏原下から上階川に架かる轟大橋を渡り、林道を山間部に入ると須谷山合いに鹿倉山への道標がある。右の林道木道止線に入ると鹿倉山への案内板がある。轟天満宮参道コースを左に見てとんどん行くとヘアピンカーブの所が深山橋で、深山山合いの登山口に着く。左が奥山登りコース、右は御山

コース・地蔵原根コースとなっている。

今日は1月2日、三和町が新春鹿倉山登山を行っているというので、この登山口には車は置いてなかった(15分は駐車可也)。9時半を回りかけていたので、皆さんもう登られて行事は終わったのかもしれない。

身軽度を整えて、地蔵原根コース・御山コースから登ることにした。このコースは須谷右岸に山道がついている。棘のある小さな木に手袋やスポンを引っ掛けながら、ビニルテープに準かれて、左岸に渡る。御合は水の流れがない、伏流水のようだ。トラバース気味の登りで、しばらくすると地蔵原根コースの取り付きであった。落ち葉の登りから灌木の芝居根になり、上階は岩が出ていて急登だと後で地元の人が伺った。今はあまり登られてないようだ。地蔵原根コースは見送り、御山コースを登る。ヒノキ林から灌木帯になると緩部で、中山御山神社からのコースと合い、御山地蔵がある。

一旦入れている各向の新春登山の世話入らしき方が中山御山神社から登って来られた。

「ここまで頭分がかりました」

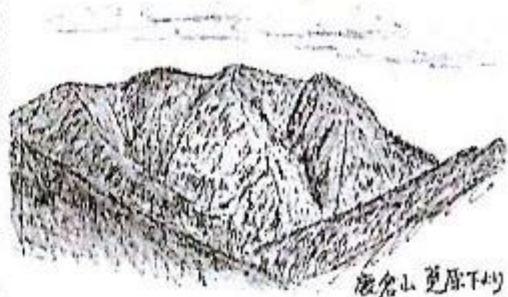
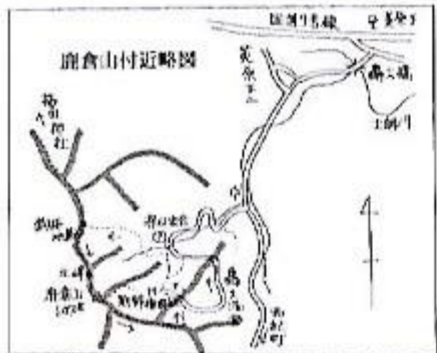
「あらー何々ちゃんじゃないの。父ちゃんはどうしてさ……」

地元の人達の会話を聞きながらの新春の山頂はのはのとした雰囲気だ。そこには村人達の素朴な会話が流れていた。

西に多紀連山の八ヶ尾山から小金ヶ嶽、三嶽、西ヶ嶽、そして、尾山、黒頭嶽が面立するように見える。東は五茶山、三峰山、長老ヶ岳、北は福知山の多峰・三峰山がやや霞んでいる。

「鹿倉山はこの山の麓に桑原、田ノ谷、山、裏原の四つの村があることから『四ヶ村山』という語があった、それからきたのではないかと……」と説明下さったのは、四ヶ村から登って来られた元町会議員谷掛八十八氏(自薦)。「そういえば山頂の三角点の点名は『四ヶ村』であるから、これが正解かもしれない。この山頂から北へ少し下った所に天狗岩があって、昔はここで雨乞いが行われた」

下山は雑木林の町界沿根を右下に「にしきカントリークラブゴルフ場」を見ながら下る。四ヶ村へ下る本郷橋えとも深い堀えとも言われるコルへの山道を見送り、三和町側の深山林道へ抜け、左に向かうと林道終点で熊野権原神社に着く。お参りを済ま



鹿倉山 更原下り

「新春登山は今年で18回になります……」  
「山頂に即時集合となっています」  
と地蔵さんにお供えをされ、木の枝を地蔵さんに掛けながら、  
「この地蔵さんは、かきかけ増盛と言われて昔から、こうしながらお願いごとをするんですよ……」  
御山地蔵からは落葉した灌木帯の登りになり、やがて周回の展望が開けて、そここ

山頂を歩いて深山山合いへと下った。  
(2)成り年1月2日(日)

- △コースタイム
- 深山山合(15分) 地蔵原根コース分岐(15分)
- 御山地蔵(15分) 北峰(5分) 鹿倉山頂上(25分) 熊野権原神社(25分) 深山山合
- △地形図②を方々千1:50,000
- 5方1:50,000

登山に必要なものは、  
国産・舶来  
すべて揃っています。  
足にピッタリ/  
登山靴のことならお任せ下さい。  
(完休・火曜日)  
〒004 京都市中京区丸太町通堀川東入  
☎ (075) 211-6708  
☎ (075) 231-0318

山とスキーの専門店

## 京都 ムラカミ



仙鶴尾根を歩く

野登山と仙ヶ岳

中級コース(★★★)  
草川 啓三

野登山と仙ヶ岳をつなぐ仙鶴尾根は、ヤセ尾根が続いてちよっぴりスリルある、変化の多いコースである。この辺りは北部と違っても少なく、晴天の日を狙っての日晒りハイキングを楽しんでみたい。

野登山登山口の石水溪口、バス停の池山へは、JR車山駅から三重交通バスが出ている。斜面に開けた池山から30分程歩くと坂本に着くが、ここはもう野登山の中腹といった感じのするところだ。坂本で左の石水溪から来た道と出合い、やがて小狭須溪谷へと続くこの道は東海自然歩道で、坂本の集落のはずれで左に野登山の登山道が分かれる。ここには鶴尾山自然歩道コースと書かれた道標がある。

登山道は橋を渡ると細い山道に変わり、深い杉林の中に入る。ナメの続く谷を渡り少し登ると、道は二つに分かれ右へ入る。

よく踏み込まれた道の脇には石仏が祀られているが、雑木の明るいこの辺りは宗教の臭いあまり感じない。ジグザク道を登って行くくと次第に広くなって林道と出会う。ふり返ると半野のはてに伊勢の海が広がっているが、この風景も鈴鹿東部の山の明るさを印象づけるひとつだろう。この林道を辿ると民家の横に出て、ここからまた登山道に入る。と反対側の橋を渡り広場に出る。鳥居のような形の石柱があり、鶴尾山と力強く彫り込まれている。参道に入り堂々たる杉の巨木に導かれるように登って行く。小さな門があり、仁和寺門跡の落款のある扁額に見入っている。ゴーンという鐘の音が響いてくる。参道沿いに並ぶ観音像に見守られながら進み、石段を右に上がると本堂に出る。杉木立に囲まれた長苔の堂々たる本堂で、信仰の深さが感じられる。

頂上の三重点ビーク(Bobee・6.6m)へは石段の途中の鐘堂から右に踏み跡を辿り、ブナの林に入って湿地を抜ける。頂上からの眺望は北西方向が開け、大きな翼を

宮指諸岳より仙ヶ岳を望む



広げたような尾根が印象的だ。この野登山は二つのピークからなっているが、もう一方の頂上にはN.T.T.の無線中継所が建っており、この間には笹原や池、ブナの自然林、杉木立ちの寺院、そしてコンクリートの建物と、種々雑多なものが混じり合う不可思議な風景をつくり出している。

仙鶴尾根へは本堂へと戻り、本堂の右手の小道を登ると無事中継所の前の林道に出



仙ヶ石



野登山・仙ヶ岳付近略図

る。この林道を下って行くくと左に大きくカーブするところから、右に登山道が分かれていく。ここには仙鶴尾根の取りつきを示す道標がある。この取りつきはブッシュが茂り心細いような道で心配になるが、ヤセ尾根に出るとしつかり踏まれた道となり、仙ヶ岳が大きく立ち上がった。この尾根は見事にしほり込まれており、ガレ場岩壁が続くので慎重な行動が必要だ。雪のついでに特に注意してほしい。二丁路となる仙鶴尾根、越しをすくからもう尾根の急登が始まり、ふり返った野登山は丸味を持ち、道面におだやかなたえをたえている。

急な岩場が終わると尾根も広がり、やがて仙ヶ岳東峰の仙ノ石ビークに着く。仙ヶ岳も野登山と同じく双耳峰であるが、野登山とは対照的にキリリッと引き締まっている。危ないバランスで立つ仙ノ石から主峰の山頂までは、10分程で着くが、頂上は狭く北西側はアセビの木が群生するもの、ほほろり度の展望が広がっている。

下山路は自谷道を下る。奥峰への道を戻ると、鞍部から右に下る道がある。木につかまるようにして急な斜面の道を下ると谷道となり、名前の通り白っぽい岩の断が

る細れ谷の中をまっすぐ下って行く。谷は両側からチロチロと水が流れ込み、次第に水音を高くしながら谷らしくなっていく。目の前のテラスに導かれていくと、落葉10分余りの形のよい滝に出会う。そして御所谷を横切り右岸、左岸へと渡り近すと山腹道となって流れから高く離れる。下の流れはコルジュとなって狭まり、深く切れ込んでいく。やがてまた流れに近づくと賞味期限の小屋がある。ここは南西側の取りつきでもある。ガンス谷を合わせていっそう深く広くなり、岩がそそり立つ谷はまるで一帯の山水面を思わせるようだ。

長い林道を歩き、水田に出会うとそこからは広い谷間いっぱい茶畑が続いている。安楽橋の道に出ると左へ30分程で石水溪口バス停につく。

△コースタイム▽

石水溪口バス停(30分)坂本(1時間30分)野登山(1時間30分)仙ヶ岳(2時間20分)石水溪口バス停

△地形図▽

昭文社「1:25,000 御在所・鎌ヶ岳」

歴史と展望の

霧山城跡

初級コース(★) 福井 正身

一志郡美杉町の標高560m霧山山上有る霧山城跡を紹介しよう。

霧山城は、西の柿木・東の北岳と並び称された南北朝時代からの多福国司、北岳氏の居城である。

城下の多気(たけ)の里は、今でこそ山間の一村落にすぎないが、往時は伊勢まで40km・古野まで65kmの伊勢本街道沿いの要所であり、周りを七つの峠で守られた要害の地であった。

天正四年(1576)十二月二日、二万ともいわれた織田勢は、向伊勢攻略のしめくりとして、多気の城下(たけのむら)に攻め入った。迎え撃つ北岳勢は、わずかに一千余り。壮絶な戦いが繰り返されたが、家康(いえやす)に敗れ、城は落城した。

いに散られた。この激戦が行われたのが、霧山城跡である。

松阪駅より29分発のバス名松線に乗り、一両まりの列車は、山間の小さな駅を幾つか通りすぎ、雲出川と交差しながら、50分程で、鉄道側面に出て来そうなる茶臼なローカル駅、比津駅に到着する。

踏切を渡り、道標を右へと登っていく。傾斜の急な舗装路を、周りの農村の風景に見えながら40分も歩くと、比津峠に着く。そのまま下れば多気(たけ)の里であるが、「460m城跡へ」と書かれた標小に導かれ城跡への山道へ入る。

美しい植林の中を、木の階段の急登に喘ぎながら15分、540mピークに出ると、山頂は目の前である。

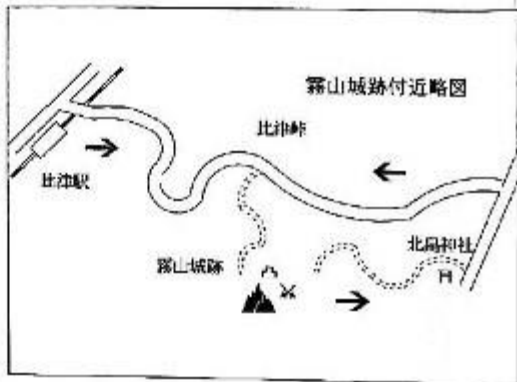
山頂部分の広い範囲は、史跡として整備されており、絶好の記念撮影所となる。木の間にからむ景色もまた、素晴らしい。南には、伊勢の根ヶ岳といわれる同じ岳の独特の形が望まれ、西にはドーム型の大洞山、南西には霧水で有名な三峰山を望むことができる。

しばらく、山々の腰腹に酔ったなら、下山にかかろう。登って来た方向へ少し下ると、南西方向(登って来たのは逆方向)に下っていく。

霧山城跡(山頂)



に下っていく。かなりした山頂がある。霧山城跡のピークの左を通り、戻ればいよいよ下る整備の行き届いた道である。「城跡へ310m」「城跡へ610m」の標示を過ぎ、頂上から30分程で北岳神社の庭園の裏の池へと下れる。さらに、道標へ出て回り込めば、北岳氏居城跡の北岳神社に着く。いかにして、伊勢の豪族吹く風の治まりにきて、四方に知らせむ



新築和歌集に載る北岳神社の歌碑。そして、北岳神社・北岳家の像が境内に並んでいる。

舞に囲まれて、北岳氏居城跡(八景)の必懸がある。「室町末期頃、十代国司時興公の義父、關原忠尚細川高国が作庭したといわれ、山側には外泉庭園、谷川に枯山水を配した池泉造景方式で、蓬萊山水式家書院庭園で野々咲あられ、当代庭園中庭指のものといわれる。」と説明がある。

しばらく心静かに休憩したら「見しよう。そのまま神社の前を通りすぎ、1.5ほど道路を下って行く。多気(たけ)の里は、静かなたたずまいの中に1000年の歴史を秘めているようだ。

田んぼの向こうに続く緑の山々を眺めながら、十字路を左折して急な傾斜の舗装路

を北岳峠へと向かう。標高4300mの峠を越えて、比津駅へと戻る。

▲コースタイム▲

比津駅(40分) 比津峠(15分) 640mピーク(5分) 山頂(30分) 北岳神社(1時間30分) 比津駅

▲地形図▲2万5千1伊勢真津

▲R名松線 松阪駅→伊勢真津駅行き

7時27分・9時36分(土・休) 29分(平日)

比津駅→松阪駅行き

15時19分・17時10分・18時43分(最終)

山城三十山

日本山岳会京都支部編著 四六判・一九〇〇円

大正時代に今西錦司らが選り、昭和前期に梅棹忠夫らが改定して、今も京都の高校山岳部を中心に管轄門として登られている山々のガイド。

京都丹波の山上

内田 嘉弘著 四六判・二〇〇〇円

一山陰道に沿って、国道9号線に沿って、山城、丹波境の大枝山から丹波、丹波境の大江山まで約70山初の方ガイド。下巻「丹波高原」来秋。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2 電話 075-751-1211 〒606

連載

# 山岳夜話 (第7回)

## 小泉誓純

### 水上に咲いた徒花 (二)

大和上市駅について、フォームを集札口の方へ歩きだしたとき、意外にも、彼女はすく右手のフェンス越しに手を振った。フォーム全体を見渡せる位置を選んで待っていたようだ。

バスで柏木へ行き、駅前食堂で賑なじみのおぼあさん(店主)と世間話などしながら、軽く昼食をとる。どうしようか、などと悪いながら、ビールも一本……。

その間に、おぼあさんの専主が経営する会社のタクシーを呼んでもらう。やって来たのは、これまた顔なじみの運転手だった。かつて彼はよく、「にいちゃん、よお来るなあ。いつ仕事するねん」と笑ったものである。彼ももう中学生の子をもつ親となっ

ている。

入之渡から二ノ谷出合、そこから北殿川林道に入って三ノ谷出合を過ぎ、対岸(左岸)から入る支流にかかる雨後流を見て車を降りる。

「運転手と話をしているのを聞いてると、あなたのほうが地元の人よりずっと、この辺りの山や沢に詳しいみたいね。地図が要らないんじゃない？」

「ハハハ、地元の人ほどの地方でも、案外知らないもんだよ。仕事で山へ入る人以外はね。要するに道に必要度や関心度の差であって、近くに任んでいるかどうかは関係ないということだ。まあ、今から行く所なら、地図も要らないのは事実だけど……。ただし、オンはオッチャコチャイだから、いつどこで墜落して死ぬかもしれないよ。」

「せいぜいよく地図を見ながら登るんだなあ、一人でも生きて帰れるためにね」

「いやだあ。悪い冗談は言わないでえ。もしそんなことになったら、私も死ぬ。新聞記事になったら、家においてももらえなくなるもの、生活力もないのに……わたしは一人で山と修行に行っていることになっているのよ。しかも東北へ」

「ハハハ、娘を持たなくて良かったよ、おしは」

「歩くのヘルメットを彼女の頭に載せて、あと紐を絞めてやる。買わなくてもよいと可ってあった。そして歩くは慣れずをかぶった。」

「歩っくり歩いてね」

「ハイハイ」

まずは北殿川を左岸へ渡る。本流だから、けっこう水深があつて流れも速く感じるのので、彼女は自信がない様子。早速ながら手をこなしで渡った。

支流左岸の小池をつたって雨後流の古を巻き、二股を右の深谷に入る。彼女はすいぶん歩きにくそうだが、だが過去の経験から、今日歩く予定の2時間ばかりで徐々に慣れて、明日は少し楽になるだろうと思つた。

前方が少しばかり険しい森相を見せてきた所で、広い場所があるうちに、今日はここまでとする。そして日頃とは違って、月念に整地をしてからツェルトを張った。

「ほくが充分な流木などを集め、彼女には小枝を拾わせる。一度穴をつけると、あとは捨ておいても自然に大きな焚火に成長していくのを、彼女は自分のわずかな苦い経験に照らして、しきりに驚嘆した。」

「今日は釣りはないの？」

「うん。こんな所ではまだやる気がしない。釣り荒らされてるだろう。林道からこのペースで2時間ほどだから……でも、馴らなると釣ってみせようか」

「川にも鮒がいるの？ わたし、知らなかった」



「うん。へ見タイ近いタイ鮒見タイ、っていう鮒がね」

「ワフ、知らないっ、もつ」

「ハハハ、あとでこの唄をうたってやるよ。まあ、ぼつぼつ飲むとするか」

「うん。何を飲む？」

「ビールから片づけよう。雷いやつから。さっきその辺りに落ちておいたぞ」

彼女がこの山行にどのような心づもりで来ているかは、ぼくには明らかでなかった。そしてぼくもまた、初めて会った日から好意を持っていたし、大森への山行や京都での一日などから、彼女を山屋としても未完の女としても、少なからずかわいと思つたようになつて来た。

だが、もしも彼女がこうまでストリートに彼女を公表に出してこなかったなら、ぼくも彼女の立場やトシの差を考へて、また性格的にも、女として見ていない親世我儘的姿勢を直す必要はないかと思われ。これはあくまで既述の語ではあるが……。

やがて日は暮れなすみ、6月の長い昼も夜へと移つて行つた。

それを代わつて赤々と燃える焚火が明かりを兼ねるようになり、闇の濃度が増すにつれて、心なしか祝言が大きくなつていく。

その軽い雑言は、ぼくは心増よくひたつていた。

ぼくはずでに半月以上も前に、この山行中に彼女を懐くことに決めていた。もしなぜかと聞かれても、そうしたい気持ちになつたからだとしか言ひようがない。

あえて何かを言ひよとしてみれば、彼女は、自らの意志を尊重して、ただ安徳のために、愛しても尊敬してもない男に抱かれることを前提とする生活への道を選ぶのは、虫田な女のことであるという。反常理的、倫理的と深層性とプライドを併せて持っていた。

また彼女は、自らのストリートな愛情表現を非難論であると充分に認識したうえで、かつぼくの家庭を嫌すまいと心に決めているのがよくわかり、それがいじらしくもあつた。

そしてぼく自身は、万一そのことによつてある種の地獄に落ちるようなことになつても、それが出会いの運命の急せるところなら仕方あるまいと、心の奥底で諦観的に覚悟していた。しかしそんなことにはなるまいという楽観もあつたのは、否めない事実である。

それは丁度、すばらしくもかつ登はん園

難な境に出会ったときの、あの覚悟の中にも楽観を伴うような心境だったとも言えようか。

要するに、人間関係は相互作用によって変化・推移するという範ちゅうのことであるには違いない。

「そろそろ寝る用意をしようか。まだ少し早いけど、明日はちよいと早起きするからな。」

「何時ごろに出発するの？」

「遅くとも7時には出発したいなあ、ゆっくり歩いためには。だから5時半に起きよう。」

「はい。……この火はどうするの？」

「このままほっとけばいい。用事をやる間明をいれようがいし、オバケよけにもなるしね。まあ、たまにしか出てくれないけど。」

「イヤア、怖いこと言わないでえ。」

「ハハハハ、人間よりも怖いモノは出ないさ。人間がいちばん怖い。人間にとってもほかの動物にとってもね。」

寝具以外の物はなるべく持ち込まないよう指示して、ツェルトの中を整理し終えた。

「身体を試ってくる。少々冷たいけど、あとが気持ちいいよ。」

とは自然にまかせせるものだと思っているのか、先ほどまでの恥じいとは裏腹に、自分を初めて抱く男の所作に、ほとんど始めから終わりまで声を出し続けた。だが少なくとも、それが彼女の「サービス」ではないことを、彼女が出す汗やその他の体液と、身体の動きが充分に物語っていた。

「長年、山をやってきたけど、山の中でこんなことをしたのは初めてだよ。」

「……わたしもよ、もちろん。」

「街の中ではときどきやるのか？」

「ひどいこと言うのね。……わたしをそんな女だと思ってるの？」

「そうは思っていないし、思いたくもないが……念のために聞いておきたかっただけだ。……もし間違ってるんなら女を好きで抱いたのなら……自分がみじめだからね、いいトシを……わかったよ。……怒ったか？」

彼女はゆっくりと首を振った。

「……逆だ……うれしくて泣きそう。……口に出してそんなことを言ってくれて……初めてだよ。」

彼女はほくほくの胸に顔をうずめた。熱い物がいく筋の胸を伝って流れ落ちて行くのを

彼女もそつするようによ、時にさう言った。

そして……時間はツェルトの中が明るさを保つように見計らって、焚火に薪を追加してからツェルトに戻った。

「わたしも行ってくる。外に出てこないでな。」

「わかってるさ。滑らないように気をつけようよ。少し火に当たってからは戻れない。」

ほくほくしてだけ持ってきたブランデーをストリートで飲みながら、今から好きな子を初めて抱くというのに、この落ち着きはとうとうことなだらう。……早くから決まっていたことだからかな？ などとほんやり考えていた。

戻って来た彼女は、上下ともに着替えていた。

「何飲んでるの？」

「ブランデーだ。上等のコニャックだぞ。いい香りでもらやかだ。飲むか？」

「うん。少しだけ。」

彼女がゆっくりと飲み終わると、向かい合って坐っている彼女の両手を、ほくほくは手をのばして握った。そしてしばらくじっと目をみてから、ぐっとひっぱり込むようにして抱き寄せた。

感じながら、ほくほくは無言で彼女を強く抱きしめた。このとき彼女は、こらえきれずに声をつまらせて泣いた。そしてほくほくは、何となく彼女の髪を撫でてやった。――

「あ、オレをうたってやるのをコロッと忘れていたよ、騎の唄を。」

ほくほくはその歌詞のトシの部分で彼女のトシを変えて、リズムに合わせて彼女の背中を軽く叩きながら、小さくうたった。ずいぶん古い唄である。

（歌二十六五節で、騎がほしいと泣いたとき、どんな騎かとよく聞けば、見たい、逢いたい、願見たい、ソレ、トロント、コタン。）

「ソレ……」

「車の中暗れ極か。じゃあもう一ついい。」

長い人生にいろいろなが、強く鍛えたハートがある。生きてることにはつらいけど、生きてることにはすばらしい。……いともかわいいうるを見て、君が幸せ運んで来たよ。生きてることにはつらいけど、生きてることにはすばらしい。……槍が降ろうが腹にならうか。二人手を取り登るじゃないか。生きてることにはつらいけど、生きてることにはすばらしい。

何度かの長い接吻のあと、彼女の上等のボタンを片手でゆっくりと一つずつはずしていく。そして胸に手を人れると、彼女はまたそこに小さな障害物を着けていた。

「やはりそこまでは気が利かないか。……上等を脱がせて背中に両手をまわし、フックをはずしてそれを取り去る。彼女はさきほどから、ほくほくの意図にそうように、腕を動かした。

シュラーフの上にそっと押し倒して下半身のものも脱がせ、最後のものを取り去ろうとしたとき、彼女は「ねえ、ローソクを消して。お願い」と言ったが、ほくほくはそれを無視した。

ローソクの光も、焚火の明かりもまたツェルトのオレンジ色と化している中でさえ、彼女の肌の白さと乳首の色の淡さがよくわかった。

再び彼女が「ねえ、お願い」と言ったとき、ようやくほくほくはそれを聞き入れた。だが、ときに明るく、また暗くなる焚火の明かりに、目はすぐに馴染んだ。こんなときのために、美が焚火に薪を追加しておいたことを、彼女は知る由もない。

彼女は舌を殺す術を知らないのか、その余勢を持ち得ないのか、それともそんなこと

「どうだ？ 暗れ極のち快楽になつてきたか？」

「ワフッ……はい。」

「じゃあ、そろそろ何か着ないと風邪引くぞ。」

「うん。……あなたもね。」

「そうだなあ。……じゃあ、オレは外で着るから、キミはここで着ろ。」

もう一度焚火のそばで水割りを軽く飲むことにして、飲みながら、ほくほくは明日出るルートの概要を説明し、明後日は遊覧に定着して、魚釣りや放鷹、馬乗などして遊ばす予定であることを、彼女に披露した。

彼女は定着生活を最も楽しみにしていると言った。一方で、明日の台高山脈横断の道行と下降が多少不安な様子が、薄いシュラーフに入って天井を眺めていると、彼女はローソクを消して越えようとしたあと、「おやすみなさい」とささやいた。

彼女のこの予想外の行為を通して、ほくほくは彼女の幸せ気分を感じ、同時にまた、ほくほくも久々に身も心も満たされた思いにひたりながら、心の中で「ありがとう」と言いつつ眠りについた。

たのしい山歩き

尾瀬雑考②

「単独行を避けたいルート」

松下 満

尾瀬への入山ルートは計8ルート。群馬県側から大清水・富士見下・鳩待峠・湯の小屋温泉の4コース、福島県側からは御池・沼山峠・小沢平の3コース、栃木県からは泉原沼よりのコースがあるが、よく利用されるのは大清水・鳩待峠・沼山峠からの3コースである。

今回はあまり人に知られず、利用者が少ないコースを紹介する。但し機體の通り単独行は絶対に避けて下さい。現地に詳しい人か経験豊富な人との同行を必ず守って下さい。

◎富士見峠・日原山・血伏山・尾瀬沼コース  
夏のシーズンでも人影を見ない静かなコースです。富士見峠からマイクローワーブ反斜坂の立つ台地までは林道で歩きやすく、台地の南側に距離が広がる、ここからはゆるやかな登りで右下に東進道標道があるがこれは無視して日原山に登る。360度の眺望があり、霞ヶ山は南側目前に、北東方面に煙ヶ岳・尾瀬沼を見る。

血伏山へは北側の急坂を下って行く。樹林の中の暗い道は何となく心細い。やがてセン沢田代に着くが、背丈の高い笹や草に遮られ遠望はほとんど見えない。ここからしばらくは平坦な水道が続き、空を眺めながら小川を渡る。シジメの急登坂、そのあと、また暗い樹林の中の道だ。

血伏山の頂上は樹林に覆われて視界はゼロ。血伏山から尾瀬沼まではゆるやかな下り道で、眺望は相変わらず悪いが時々小湿原に出ると、空が見え、こんなに嬉しいことはない。少し急坂を下ると、このコース最大の湿原大清水が眼下に広がる、春にはミスバショウ、夏にはニッコウキスゲの群落が見られる場所である。

再び樹林帯をゆるやかに下る。急な下りに感じられたらそこが尾瀬沼だ。道を右に

とれば三並下、左にとれば沼尻へ出る。

このコースでは、春と秋に遭難事故が発生することが多い。特にセン沢田代・血伏山付近で道に迷うようである(道が割れていて跡を跡を見失うことがある)。平成6年10月2日、富士見峠より尾瀬沼へ向かった東京からの単独行の女性(69歳)は血伏山付近で道に迷い、9日ぶりに一の瀬休急所近くで救助されている。熊に注意の看板が目につくこのコースで、よくぞ無事であった。この方の遭難に感嘆するばかりであった。

他に単独行を避けたいルートを列挙する。  
◎大清水・中ノ谷沢・小淵沢・小淵沢田代  
初夏にコースの草木を刈りとり整備されるが、入山者は非常に少ない。

◎泉原沼・赤安山・小淵沢田代  
例木が多く思われロスタイムがある。数年、弥四郎小屋オナー一行もビバークを余儀なくされている。

◎オヤマ沢田代・小至仏山・至仏山  
全ルートでガスつたとき迷いやすい。また小至仏山・至仏山頂間の西側はガレ場が多く滑落に注意が必要である。

◎富士見峠・十田代十才路(八木沢新道)  
近年熊がよく出るそうです。特に沼尻から八木沢にかけてのコースに。

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 飯電 京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

- ▽万寿ハイキング「霧氷展望ハイク」・枚岡神社から信貴山へ(11月8日)日東会枚岡神社(奈良)枚岡園から徒歩すぐ(9時30分)コース
- △枚岡園 枚岡神社・鳴川峠・十三峠・立石越・信貴山御護国寺・高安山(約17km) 会費無料(バス代2300円/小人1380円は別途) 参加自由、上末町事業06(775)3556
- ▽冬山登山「三峰山登山」1月15日(日)集合大阪橋本駅前9時10分(コース) 橋原駅 奥平院青少年館(約10km) 三峰山 山頂一宮子院青少年館(約10km) 枚岡園(約10km) 地元の方が引率します。アイゼン持参。会費無料(バス代2740円/小人1380円は別途) 上末町事業06(775)3556 御池村総合企画課09745955・secret01(代)
- ▽冬山登山「冬の滝門登山」1月22日(日)集合高野線・大和上市駅前9時30分(コース) 大和上市駅 山一山一山神社・滝門寺跡・滝門岳一八五寺神社・西谷一安楽寺・西谷口二大和山(約14km) 会費無料(バス代6300円/小人3200円は別途)

別送

- ▽冬山登山「霧氷の高見山登山」2月13日(日)集合高野線大和上市駅前9時30分(コース) 大和上市駅 高見山(約10km) 高見山頂一宮子院(約10km) アイゼン持参。会費無料(バス代2440円/小人12300円は別途) 定員300名(電話申し込み) 天王寺事業06(6224)0382
- ▽冬山登山「霧氷の高見山登山」2月13日(日)集合高野線大和上市駅前9時30分(コース) 大和上市駅 高見山(約10km) 高見山頂一宮子院(約10km) アイゼン持参。会費無料(バス代2440円/小人12300円は別途) 定員300名(電話申し込み) 天王寺事業06(6224)0382

阪急

- ▽日刊スポーツファミリアハイク 第22回元日日出ハイキング「三原自然休養林・中山寺奥の院・海

<p>名峰・二岐山 小淵沢・大淵沢・子・沼尻への登山(約17km) 尾瀬沼への登山(約17km) 尾瀬沼と内湖</p> <p>福島・二岐山 日銀連 大和館 〒900-0106 和歌山県和歌山市大和町 04944-2210 04944-2210</p>	<p>秋文 不動の湯 〒900-0106 和歌山県和歌山市大和町 04944-2210 04944-2210</p>	<p>秋文 不動の湯 〒900-0106 和歌山県和歌山市大和町 04944-2210 04944-2210</p>	<p>秋文 不動の湯 〒900-0106 和歌山県和歌山市大和町 04944-2210 04944-2210</p>
---	--	--	--





山行計画

新ハイキングクラブ会

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように保ちて申し込んでください。「世用」のほかに参加者代表その他の資料請求を頂くこともあります。  
 山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と一緒の入りはお断りします。  
 料金の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料(日額50円)を日溜りの場合は2日になり1000円を支出して頂きます。(A)J保険会社(保険料)  
 傷害保険料の内訳は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
 入院保険金 日額 25000円  
 通院保険金 日額 5000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散まで係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③火・雪・氷・岩はくを目的とした山行。④溜池場所内の事故。(詳細は係まで)

(記入例)  
 (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (会員でない方は会員外と記入) 生年月日 緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

新年会山行

保本峠から嵐山 (一)一般向き  
 期日 1月8日(日) 日溜り  
 集合 JR京都駅東口徒歩5分(山本橋)のりば6時30分  
 コース 京阪線(宇治)保津橋駅→イロガシ→あづま→嵐山→保本峠→嵐山→松尾大社前→とりて→一乗寺→保津橋駅→イロガシ→あづま→嵐山→保津橋駅→宇治  
 費用 約4000円(交通費・保険料代共)  
 地図 昭文社「近畿道西山」○比良橋表  
 申込み 田大群10の10 村田まで  
 コース 田大群10の10 新ハイキング(会費)に限る  
 嵐山を歩き、下山後保津橋駅「とりて」でバスを乗って新年会をします。入替も可。雨天代行天ヶ森  
 平日木曜ハイック  
 期日 1月12日(休) 日溜り  
 集合 京都地下鉄北大路駅京都バス乗り場8時50分(北大路通車丸貫入る北加瀬西渡河川)  
 コース 北大路駅(2)小山右

ハイキング・キャンプに、鈴鹿園定公園 朝明谷 あさけ茶屋 三ツ口 三ツ口末分庫 百井「鳥井」マイクラ ハス 北大路駅(解散10時30分)  
 三ツ口 三ツ口末分庫 百井「鳥井」マイクラ ハス 北大路駅(解散10時30分)  
 三ツ口 三ツ口末分庫 百井「鳥井」マイクラ ハス 北大路駅(解散10時30分)

三ツ口から徒歩です。百井へ下山して「鳥井」(2)で新年会などのプランです。登山代行 三ツ口 25名  
 期日 1月15日(日) 日溜り  
 集合 近鉄陸奥駅前8時  
 コース 横原駅(バス)大又→大又林道→明神平→大又(往復コース)(バス)

横原駅(18時30分)解散後(費用 約3000円(交通費))  
 地図 昭文社「近畿道西山」○比良橋表  
 申込み 田大群10の10 村田まで  
 定員4名  
 昨冬、大又林道が雪崩のため伊勢辻山へ変更しましたが、今年は積雪の明神平を歩きます。小雨代行  
 京都北山歩き33 (一)一般向き  
 期日 1月22日(日) 日溜り  
 集合 京都地下鉄北大路駅下車 北大路通車丸貫入る北加瀬西渡河川  
 コース 北大路駅(2)小山右  
 父谷林道(都がめ)の岩  
 横原駅(解散10時30分)  
 費用 約3000円(交通費)  
 地図 昭文社「近畿道北山」○中西山行  
 申込み 田大群10の10 新ハイキ

神社→近鉄嵐山川原(費用 約1000円(近鉄嵐山駅→交通費・保険料))  
 地図 2万5千1信登山  
 申込み 田大群10の10 村田まで  
 平日本曜ハイック  
 期日 2月9日(日) 日溜り  
 集合 京都地下鉄今山駅(山本橋)のりば6時30分  
 コース 京阪線(宇治)保津橋駅→イロガシ→あづま→嵐山→保本峠→嵐山→松尾大社前→とりて→一乗寺→保津橋駅→宇治  
 費用 約4000円(交通費・保険料代共)  
 地図 昭文社「近畿道西山」○比良橋表  
 申込み 田大群10の10 村田まで  
 嵐山を歩き、下山後保津橋駅「とりて」でバスを乗って新年会をします。入替も可。雨天代行天ヶ森  
 平日木曜ハイック  
 期日 1月12日(休) 日溜り  
 集合 京都地下鉄北大路駅京都バス乗り場8時50分(北大路通車丸貫入る北加瀬西渡河川)  
 コース 北大路駅(2)小山右

田大群10の10 新ハイキング(会費)に限る  
 嵐山を歩き、下山後保津橋駅「とりて」でバスを乗って新年会をします。入替も可。雨天代行天ヶ森  
 平日木曜ハイック  
 期日 1月15日(日) 日溜り  
 集合 近鉄陸奥駅前8時  
 コース 横原駅(バス)大又→大又林道→明神平→大又(往復コース)(バス)



集合 JR高槻駅北口の歩道橋

コース 高槻駅(バス) 車籠町明神ヶ丘一宮尾崎一田能一明神街道一岡山林道一池田谷津一萩谷(バス) JR東武高槻駅

費用 約2000円(交通費)

期日 2月26日(日) 日曜日

集合 JR高槻駅中央出口北

コース 高槻駅(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

申込み 7月10日(日) 高槻市中野田大塚10の10 新ハイキング倶楽部

コース 高槻駅(バス) 車籠町明神ヶ丘一宮尾崎一田能一明神街道一岡山林道一池田谷津一萩谷(バス) JR東武高槻駅

費用 約2000円(交通費)

期日 2月26日(日) 日曜日

集合 JR高槻駅中央出口北

コース 高槻駅(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

費用 約1500円(バス代)

期日 2月26日(日) 日曜日

コース JR高槻駅中央出口北 高槻バス(バス) 前之庄一前之庄一明神山一明神池一前之庄(バス) 高槻駅

山行報告 新ハイキング倶楽部

9月11日(日) 晴れ時々曇り

JR高槻駅北口9:00(タクシー)

川久保9:15→25→40→28→8

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

10:05→10:15→11:55→11:55

①坂元一彦 (計29名)

比良・蛇谷分隊

9月16日(日) 晴れ

JR高槻駅7:57(電車) JR近江高槻駅8:51→9:00(バス)

箱9:20→25→ボクワタ峠10:45

蛇谷ヶ谷11:45(昼食) 12:55

(休憩) 入会 16:00(バス) JR近江安曇川駅16:25→28(電車)

JR京都駅17:50

ようやく涼風が吹く頃となり

山頂での展望を楽しんだ。グリー

ンパークへの下山路で絆に響かれ

て10数分刻された。スヌベパチ

ではなかつた。

(参加者) 竹尾健治 今井 浩

柳 礼子 森澤元博 森澤孝一

三木長子 高橋孝男 岡本政一

水野昭江 南 尊子 村上慶子

下村孝子 高岡隆子 稲本秀雄

美井 三子 前田隆子 加藤孝彦

藤原明 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

藤原孝彦 藤原孝子 西田 夫

奥山繁二 三木辰子 辻 義弘  
野口 修 前田幸子 熊本善雄  
野崎重郎 森澤元麻 森澤淑子  
下村敦子 ○山崎敬治  
◎村田智俊 (計25名)

国見岳から御在所  
10月16日(日) 曇り  
近鉄湯の山温泉駅9・00 湯の山  
温泉9・25 湯の山不動9・40 藤  
内小室10・25 三井寺跡10・  
55 藤不動11・15 ゆるき台12・  
05 20 国見尾12・30 (昼食) 13・  
25 国見尾13・45 御在所温泉  
14・00 20 中道キレット15・  
10 20 御在所山の家16・00 湯  
の山温泉16・30 (解散)

10月16日(日) 晴れ  
JR津津駅9・00 (バス) 上桐生  
バス停9・15 30 兩峰峠走路台  
10月16日(日) 晴れ  
JR津津駅9・00 (バス) 上桐生  
バス停9・15 30 兩峰峠走路台

10月16日(日) 晴れ  
JR津津駅9・00 (バス) 上桐生  
バス停9・15 30 兩峰峠走路台

湯原野村江江 45 (昼食) 12・  
80 南谷林道12・40 泊坂等跡  
崖12・65 国見尾13・10 耳岩  
13・30 天狗岩13・40 14・10 1  
北峰峠走路台山分岐14・30 45  
1 湯ヶ流15・10 20 上桐生15・  
45 16・20 (バス) 津津駅16・40  
(解散)

南峰峠走路台人が通らないので  
表れていたアケビがいっぱいあ  
た。予想外に時間がかかったが、  
北峰峠走路台は快調に歩いて、天狗  
岩での大団圓を楽した。

10月23日(日) 晴れ  
JR津津駅9・00 (電車) 安養川  
駅6・55 9・10 (バス・マイカー)  
村井登山口9・40 10・00 1 松本  
池原10・20 牛ノ川11・00 1 湯  
子峠12・00 1 白合岳12・15 (昼食) 13・  
10 1 由良尾13・25 湯原13・40 1  
1 500 3 村井江14・20 30 1 板生  
橋15・10 30 (バス・マイカー)  
安養川駅16・10 (解散)

◎西出 寛 (計51名)

10月23日(日) 晴れ  
JR津津駅9・00 (電車) 安養川  
駅6・55 9・10 (バス・マイカー)  
村井登山口9・40 10・00 1 松本  
池原10・20 牛ノ川11・00 1 湯  
子峠12・00 1 白合岳12・15 (昼食) 13・  
10 1 由良尾13・25 湯原13・40 1  
1 500 3 村井江14・20 30 1 板生  
橋15・10 30 (バス・マイカー)  
安養川駅16・10 (解散)

登山隊を率領された「村井山行  
会」の会長中野弘さんの先導で、  
紅葉し始めた比良山を展望しなが  
ら歩いた。中野の大杉も見た。

10月23日(日) 晴れ  
JR津津駅9・00 (電車) 安養川  
駅6・55 9・10 (バス・マイカー)  
村井登山口9・40 10・00 1 松本  
池原10・20 牛ノ川11・00 1 湯  
子峠12・00 1 白合岳12・15 (昼食) 13・  
10 1 由良尾13・25 湯原13・40 1  
1 500 3 村井江14・20 30 1 板生  
橋15・10 30 (バス・マイカー)  
安養川駅16・10 (解散)

◎山崎敬治 (計25名)

中村和子 平 幸子 田山順子  
下村修三 下村幸子 松本隆雄  
岡本政一 村上健子 水野隆江  
南 寛子 辻 義弘 谷口とも子  
多喜川二 多喜久子 藤原昭子  
藤原正弘 藤原雅夫 本ノ和夫  
松下 武 西村善治 山崎多恵子  
辻村延夫 血原隆男 久保山英次  
下西 規 血原昭子 辻 義一 藤  
寺本幸男 若木修一 小室 幸  
前田幸子 林 正 林 千恵子  
前田順子 岡田 昇 岡田恵美子  
仲秋登子 布澤清美 岩本いすゞ  
藤岡克子 宮河幸喜 中島加代子  
藤 久代 湯浅次男 小島フジ子  
本崎 修 三浦幸子 四ノ宮子  
土井修一 中野 弘 ○上村 規  
◎中西恒行 ○山崎敬治 (計25名)

文筆歴安藤修20  
丸尾山から晴れ  
10月30日(日) 晴れ  
丸尾山から晴れ  
10月30日(日) 晴れ

丸尾山から晴れ  
10月30日(日) 晴れ  
丸尾山から晴れ  
10月30日(日) 晴れ

イバラの寒、サワガニ、ヌメリイ  
グチ。さわやかな天気に誘われて  
おちおち歩きを楽しみました。  
(参加者)野口 修 湯浅次男  
武田隆雄 中西 昭 真田久子  
林田輝 山中 勉 千華千枝子  
新治悦子 大本久子 奥村誠治  
岡野 修 竹中圭保 伊藤隆雄香  
山根まき子 松永めぐみ  
◎松永めぐみ (計17名)

重王山から須津城(地図読み)

11月3日(日) 曇り時々晴れ  
阪田坂木市駅9・15 (集合) 95 発  
(バス) 坂頂寺9・25 重王山頂  
10・10 25 鉄塔10・30 40 分  
枝10・45 (六仏と良徳若住僧) 11  
・25 1 岩屋11・27 1 鐘塚跡12・05  
1 車作大橋12・15 1 遊仙の滝12・  
35 (昼食) 13・30 1 萩谷14・30 1  
須津城15・10 25 1 白糸滝15・35  
1 上の口バス停15・55 (バス) J  
R高槻駅16・20 (解散)

(参加者)近藤 恭 橋本義次郎  
布施清美 野口 修 野口志津子  
小林 昇 村野東彦 藤本吉一郎  
新田寛子 北川良子 阪月マツ  
直田幸子 辻本誠子 阪口千鶴子  
遠藤 栄 遠藤信子 杉原美子  
原田清弘 元吉 洋 田中三郎子  
藤 雅也 中村 登 上田千枝子  
◎小笠原敏子 ◎松元一彦 (計25名)

新ハイキングクラブ関西  
入金のすすめ

このページの山行例会を通じて  
正しい山歩きを、たのしい山仲間  
たちと味わいませんか。リーダー  
(係)はすべて無償の奉仕で、各  
日で切符を買い茶代を払い、宿泊  
料もすべてワリカンです。  
あなたも新ハイキングクラブ関  
西に入会してのたのしい仲間にな  
りませんか。会員には毎月「新ハ  
イキング別冊関西の山」(年間隔  
月6号分)をお届けします。会員  
はこのページの山行例会に参加で  
きます。  
入会金 500円(ハンジ代)  
年会費 2000円(送料共)  
新ハイキングクラブ関西への入  
会申し込みはこの雑誌に挿入の振

替目録をご利用下さい。第何号か  
ら送布せよと明示下さい。  
尚、定期購読を希望される方  
も会員になって頂きます。毎月  
雑誌にお手元が届きますので配河  
です。

山行リーダー募集

新ハイキングクラブ関西では、  
会員の増加に伴って、山行計画の  
回数を増やしていく必要がありま  
す。リーダーは2か月に1回程度  
の山行計画を立案し、安全地して頂  
きます。  
申し込みの受け付けなど、いろ  
いろな用件がありますが、経験の  
ある方や、やってみたいと思われ  
る方は当会本部(村田)までご連絡  
下さい。  
特に、北摂の山・六甲・丹波の  
山・室生山系・金剛・奥美濃・愛  
知県の山・伊勢の山・和歌山の山  
などに詳しい方を募集します。  
その他の山城でも、もちろん結構  
です。よろしくお願ひします。

◎新入会費紹介(20037まで)

小林 昇 林 定男 林 豊子  
小倉一迪 岡田武男 原山智永子  
宮崎智英 藤生 功 伊勢ノ 康  
野中耕司 橋山幸子 前田里里子  
今西光男 横山幸子 阪口千鶴子  
河田 順 河田幸子 岡本美子  
中村順子 真田明子 小山内 猛  
尾崎達彦 尾崎信子 藤 雅也  
畑中健枝 木島光一 上野志津江  
中村健枝 上坂延枝 山根まき子  
脚 紀雄 小西美夫 青木一雄  
磯部 茂 川本 隆 川本マ子  
居波久子 松本隆一 松本香代子  
森 昌好 長坂文男 入見付津子  
立川徳夫 小林 実 伊藤まほる  
花井 信 藤井啓二

訂正とお詫

19号(晩秋) P10の月次のバス  
時刻(鈴鹿)はバス時刻(京都北  
山)が正しい。  
19号(晩秋) P10中後22行目  
「津志(へ)のあこがれは」は「津  
志(へ)のあこがれは」が正しい。  
19号(晩秋) P10「昨日の日  
」  
「村山俊子」さんは「村上俊子」  
さんが正しい。